

会議の名称	令和6年度第3回茅野市行財政審議会		
開催日時	令和6年8月6日(火) 18時30分～20時25分		
開催場所	市役所8階大ホール		
出席者	※出席委員等：小平会長、守屋副会長、足立委員、鈴木委員、半田委員、宮坂委員、牛山委員、北原委員、柳澤委員、大川委員、國枝委員、高安委員、矢崎委員（オンライン参加） ※市側出席者：柿澤副市長、山田教育長、小池企画部長、平沢市民環境部長、井出健康福祉部長、両角産業経済部長、黒澤都市建設部長、五味こども部長、上田生涯学習部長、河西スポーツ健康課長、松田スポーツ健康係長、大蔵企画課長、伊藤企画係長、平澤総務部長、森井財政課長、原田財政係長、朝倉行革推進係長、太田行革推進係主査		
欠席者	名取委員、小山委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	46人 (うち報道4人)
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
財政課長	<p>議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 副市長挨拶 3 会長挨拶 4 会議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 諮問内容の協議(資料1～3) (2) その他 5 その他 次回開催 9月2日(月) 6 閉会 <p>【議事録】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 1点目 報道機関からの取材受入報告 2点目 傍聴者へのお願い <p>それでは、令和6年度第3回茅野市行財政審議会を開会いたします。 それではまず、副市長より挨拶を申し上げます。</p> 		
副市長	<ol style="list-style-type: none"> 2 副市長挨拶 皆さん改めましてこんばんは。 1日のお仕事の後のお疲れのところ、そして、今日大雨注意報出てる中での天候の悪い中での会議の開催となりましたけどもご出席いただいて大変ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。 さて今年、令和6年なんですけれどもこれは平成の大合併、諏訪地域6市町村合併が破綻してから20年目の節目の年に当たります。当時の合併の考え方ですけれども、より高い住民自治、より安定した財政基盤、より高い政策立案を実現するた 		

めに、分権型段階合併を進めていく、その考え方で取組をしたわけでございますけど結果として民意を得られることができませんでした。その合併の破綻を経て諏訪地域6市町村は、それぞれ自立の道を歩み、まちづくりを進めてきました。茅野市でもこの間、数度に及ぶ行財政の集中改革や行財政の構造改革に取り組み、財政の安定化を図って参りましたが、近年特に超少子化、超高齢化による社会構造の変化、その変化の波の影響を大きく受けております。

茅野市の一般会計の当初予算で言いますと、平成31年度の一般会計の当初予算、これは柳平前市長が編成して、今井市長1年目に執行した予算でございますけれども、この31年度の一般会計の民生費いわゆる社会保障費を、今年令和6年度の一般会計当初予算と比較しますと、一般財源の支出、つまり市の税金など、市の真水の財源の支出が、民生費で8億2000万円増えております。

このうち約4億円は国が少子化対策として、保育料の無償化を行ったことによる茅野市の負担分です。残りの約4億2000万円は、後期高齢者医療保険の負担金の増をはじめとする、高齢者福祉関係の経費の増加によるものです。

つまり少子化と高齢化の波というものがもろに予算の方に影響しているということになります。基礎的な自治体と言われる市町村では社会構造の大きな変化や国や県の政策決定に大きな影響を受けます。

そしてそれぞれの市町村が大事にしてきた独自の政策をそういった中でどうやって守っていくか、様々な選択の岐路に立っているということになります。

茅野市はこれまで福祉や環境、子育て教育といった分野でパートナーシップのまちづくりを進めて参りました。

こうしたまちづくりを大切にし、これからも持続可能な茅野市であるためには、あれもこれもではなく、何かを守るためには選択していかなければなりません。

行財政審議会委員の皆様にとっても大変難しい判断をされる場面、これがこの任期の中で多々生じることもあるように思います。

しかし今ここで判断を先送りにすれば将来の市民に判断のツケを任せていくこととなります。送っていくこととなります。

どうか忌憚のないご意見ご審議をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。今日はよろしく願いいたします。

財政課長

ありがとうございました。続きまして、会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長

3 会長挨拶

皆さんこんばんは。本当に暑い日が続きますけども、それぞれのお立場で、お忙しい中、第3回目の審議会ということでお集まりをいただきました。誠にありがとうございます。

～オンライン参加者、欠席者の確認～

3回目ということで、若干前回までのおさらいをしながら、ちょっとご挨拶を申し上げます。

第1回目の審議会におきましては、茅野市の中期財政需要推計結果に基づきまして、今後の茅野市の人口推計等を含めながら、説明をいただき、このまま手をこまねいていけば、市の財政状況はあと数年で逼迫する状況ということを理解しました。つまり蓄えである基金が底をつくということでございます。

茅野市の人口はですね、平成20年頃の5万7400人をピークに減少を続けております。令和22年には5万人を切るという推計でございます。ただ注目しなければならないのは生産年齢人口でございます。15歳から65歳、これとですね、年少

人口、15歳未満は加速度的に減少していく一方で、老年人口65歳以上は増加を続ける推計というふうに出ております。

総人口と生産年齢人口の減少はですね、税収、当然減少をもたらしますし、一方で、介護、医療などの社会保障制度に関わる支出は増加を続けるものと見込まれます。抜本的な収入と支出のバランスの改善が求められております。

将来の市民生活になくてはならない財源を、優先的に確保するためにも、現在の収支を見直す状況にあると。この度はスケートセンターの諮問を受けておりますが、これに限らず、ということになろうかなというふうに思います。

また昨年度までの、審議会の取組概況や優先課題等を、説明を受ける中で、今まで数々の課題について審議されまして、一定の方向性を持った答申がなされ、改善に向けて着手されているものも多数あると、生じているとともに、私どもに引き継がれ、早々に結論付けなければならない事項もたくさんあるところでございます。

それら過去からの、審議結果を踏まえた上で、今年度は、優先順位の高いものとして、市長より、第1優先順位として、茅野市国際スケートセンターの存廃について、諮問を受けたものでございます。これが第1回目内容でございます。

第2回目の審議会は、スケートセンターにおいて開催をいたしました。施設の現況、維持修繕に関わる費用、毎年5200万余の財政投入に加えて、将来にわたり営業継続する場合は、今後施設投資の額は6億円から11億円を要する旨の説明を受けました。

茅野市の人口が5万人とすると、1人1万円で5億円です。その倍の投資が必要というふうな数字になろうかなと思います。

スケートセンターは、平成元年に総額13億をかけて建設がなされた。また令和6年度の営業開始までの35年間で、すでに総額3億6000万余の改修・修繕工事費用を用いております。

先ほど申しあげました通り現状でも年間5200万円の指定管理委託料の上に、燃料費の高騰分としての支出もプラスされております。

一方、年間の利用者数は、平成4年の14万人をピークに減少を続けております。

平成26年には4万人を切り、さらに令和5年度は3万人を切り、2万9000人余と大きく減少しております。

仮に、市民の伝統スポーツとして根付いているものと仮定するならば、ピーク時の平成4年生まれの方々は、今32歳で子育ての真っ最中ということになります。

そう考えますと根付いているならば、利用者はもっと多いものと、一般的には推察されると私は考えます。

多くのオリンピック選手を輩出したと、このことによりまして、多くの市民がスケートが全市民共通のスポーツというふうな、ある意味言葉は悪いですが、過信したかもしれないと思います。

利用者の数の推移を見る限り、現在も、これからの若者にとっても、どういうものかなと、一旦判断する必要がある時期ではないかと思っております。

現地で開催いたしました、第2回審議会において、各委員からご意見をいただき、本日の資料1となっておりますので、ご確認いただきますとともに、また同時に出席された質問であります、諏訪地域における小中学校のスケートの授業の現況ということで、資料2で、この後会議の中で説明をいただきたいと思っております。

私たち行財政審議会の目的は、茅野市が将来にわたって持続可能な行政体であり続けるとともに、若者に選ばれるまち、幸せを実現できるまちを目指した、新たな投資を行う財源を生み出すことができることを、判断基準に提言を行うということを託されております。

これらの課題と、その現状を知りつつ、看過することはできない。限りある税金

<p>財政課長</p>	<p>を、しかも税収が減っていくと推計される中で、新たな投資を行う財源を生み出す、また、福祉等々に回すお金を生み出すということ判断基準にするならば、「まあまあ」とか「そうは言っても」ではない、結論を出す使命を負っているのではないかなというふうに考えます。</p> <p>市の理事者の皆様も、市議会議員の皆様も、また市民の皆様も、職員の皆様も、判断の着眼点は、すべては将来のためという共通認識の上に立って、目の前にある課題を避けることなく進めなければならないと考えております。</p> <p>本日は、前回出されたご意見について確認をいただくとともに、ご質問に対してご回答いただいて、アンケート結果について説明をいただきます。</p> <p>そういった中で、さらに審議を深めたいと考えております。</p> <p>できれば、今日協議をいただいて審議をいただいて、当初審議いただきました審議会のスケジュールに沿って、次回第4回においては、答申の素々案について、ご提案を申し上げてそれに基づいて審議したいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>長くなって恐縮でございましたけども、佳境を迎えておりますので、今までの内容を整理しつつ申し上げます。これをもって挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございます。</p> <p>会長ありがとうございます。それでは早速、会議事項の方に入らせていただきます。以後会長の方に進行をお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>4 会議事項</p> <p>(1) 諮問内容の協議</p> <p>それではレジメに沿って、4の会議事項の方に移らせていただきます。着座にて進行させていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>若干ダブりますけども、第1回の審議会で、スケートセンターの存廃について、諮問を受けた。利用状況や収支改善費用等の確認をしたと。</p> <p>第2回の審議会ではスケートセンターの現地で現況を見た。機械設備やテント等の現状も確認したと。</p> <p>本日は答申に向けて協議を行いますけども、もう一度スケートセンターの利用状況や収支状況を確認し、委員の方から質問がありました、他市町村の小中学校スケート授業の状況と、スケートセンターの利用料減免等々について、また市の方で行いました公共施設のアンケート結果について確認したいと思ひます。</p> <p>そんな段取りで進めたいと思ひますので、事務局の説明を求めます。</p>
<p>財政課長</p>	<p>はい。それでは、今、会長からおっしゃっていただきました、これまでの第1回の資料の振り返り、こちらの説明、それに続きまして、資料2、こちらの方で近隣の市町村の小中学校のスケートの授業の状況、或いは利用料の減免、これについてのご説明、あともう1つ、資料3におきまして、6月19日から7月10日にかけて実施をいたしました、公共施設のあり方についてのアンケート、ここで暫定的なものでございますが、集計の結果が手に入りましたので、その説明の方をさせていただきます。順次説明させていただきます。</p>
<p>行革推進係長</p>	<p>それではお願ひします。</p> <p>私の方から、第1回のときに説明しました、スケートセンターの現状と課題についてということで、もう一度資料の方を確認をしたいと思ひますので、簡単ではございますが、資料の方、最初のページから説明をさせていただきたいと思ひますので、</p>

で、第1回のときに使いましたスケートセンターの現状と課題についての資料の方をご覧ください。第1回のときは、資料5-1ということで示したものになります。

スケートセンターの現状と課題についてということで、まず1番目、施設の概要についてですが、メインの400mスピードリンク以下、四角に囲ってある通りの施設になっております。平成元年建築で総工費、13億2400万円余となっております。

2、愛称です。

平昌オリンピックにおきまして、小平奈緒選手が金メダル銀メダルと功績を記念しまして、NAOiceOVALという愛称が命名されています。商標登録されております。

3、スケートセンターの貢献でございます。

トップアスリートの輩出ということで、オリンピック選手10名が輩出されています。また、世界選手権やワールドカップなどの国際大会や、全国大会にも選手が多数輩出されています。

地域文化としてのスケートの伝承場ということで、かつては、どの学校にも校庭リンクなどの天然リンクありましたが、今は少なくなったため、このスケートセンターが子どもたちにスケート体験できる場となっております。

続いて2ページを確認をお願いします。

4、スケートセンターの現状についてということで、①スケートセンターの利用者数の状況でございます。ピークは平成4年の約14万人であります。現在は3万人前後で推移しています。昨年度は2万9,573人です。内訳は表の通りでございます。

メインユーザーは、小学校の授業、そしてスケートクラブになっております。スケートクラブの利用は、一般入場者数の約9割を占めている状況であるというような説明をさせていただいたと思います。

また問題点としまして、小学校授業については、教職員がスケートを教えることができない現状があるということでございます。

②競技会等の実施状況でございます。

過去には全日本、全日本ジュニアなどの全国大会が開催された経過がありますが、近年は大会基準を満たしていないということで、開催できない状況であり、諏訪地域、茅野市民が対象の競技会が大半だという状況でございます。

3ページをお願いいたします。

スケートセンターの営業日は規則で、11月23日から2月の第3日曜日と定められていますが、屋外施設のため、暖冬の影響が直面してしまっていて、営業期間が短縮してしまっていて、開始日が遅くなっている状況です。表の通りでございます。

また2番としまして、昼間の営業休止の増加です。

昼間、気温が上昇して、氷が溶けたり、また雨が降ったりしまして、営業休止する日数が増えているという状況であるということです。

③として冷凍機の機能低下と設計温度の超過でございます。

8℃以下の環境下で製水できる設計であります。近年は日中に10℃を超える機会が増えている状況でございます。

④改修・修繕履歴です。

平成元年の建築から今日までの35年間で、3億6000万余の改修を行ってきました。

⑤指定管理者株式会社パティネレジャーの収支状況でございます。

3施設、ゴルフ練習場、プール、スケートセンターの運営を委託していますが、

<p>スポーツ健康課長</p>	<p>表の通りでございます。スケートセンターについては、赤字となっております、4000 万余の赤字でございます。</p> <p>指定管理料 5200 万円を、委託料として市の方で支出していますが、それでも赤字ということで、昨年度は燃料高騰分ということで 600 万余の補助をしております。</p> <p>続いて 4 ページでございます。</p> <p>令和 4 年、令和元年の収支も示しておりますので、ご覧の通りでございます。</p> <p>この収支をですね黒字化するには例えではありますが、今の利用料金をですね 4 倍にする必要があるということで、現状の料金体系と 4 倍にした料金体系を示してございます。</p> <p>続きまして 5 ページということで、その他の費用ということで、それ以外に借地料、上下水道がかかっているというようなことでございます。</p> <p>続きまして、6 ページでございます。</p> <p>⑦施設の老朽化による改修・整備でございます。</p> <p>ご覧の通り今後、改修費用として、舗装の改修ということで、地面が凍み上がって、それによってスケートリンクがでこぼこしてしまっ、それを綺麗にするために、1 億円かかるということで、以下 4 つの項目を挙げてこれが全部で約 6 億円という結果になっております。またそれ以外にも地下通路、テントの関係等々合わせますと、全部で 6 億円から 11 億円が必要ということでございます。</p> <p>参考に運動公園の施設維持管理費を、年間 1 億 7000 万円という数字も示させていただきました。</p> <p>続きまして 7 ページでございます。</p> <p>7 ページは、公園施設長寿命化計画の策定ということで、もしスケートセンターの改修を行うとした場合においては、国の補助事業を活用して実施することになります。ご覧のようなスケジュールを予定しているということであくまでもスケートセンターを存続するとした場合のスケジュールでございます。</p> <p>続きまして 8 ページです。スケートセンターの今後の方向性決定のスケジュールについてということで、今、指定管理契約をしています、株式会社パティネレジャーにつきましては、契約期間が令和 7 年度末となっております。</p> <p>そのため、令和 8 年以降の、指定管理に向けたスケジュールとしまして、令和 7 年 5 月には公募を開始するため、遅くとも、令和 6 年度末までには、一定の方向性を決める必要がありますということで、説明をさせていただきました。</p> <p>9 ページをご覧ください。</p> <p>スケートセンターの今後についてということで、選択肢を A 案から F 案までの 6 つの案を示させていただきました。</p> <p>簡単ではございますが、スケートセンターの現状と課題についての振り返りでございます。以上でございます。</p> <p>それでは続きまして資料 2 につきまして、説明をいたします。着座にて説明いたします。</p> <p>最初に諏訪 6 市町村の小・中学校スケート授業の状況把握ということで、委員の方から現状について調査をしてくれと、ご質問ございましたので 6 市町村の状況を調べたものを別表になっております。</p> <p>1 つ目は小学校の授業としてスケートを実施しているかどうかということでございますけれども富士見小以外はすべて実施をしているという状況でございます。</p> <p>次 2 番目の年間計画の中でのスケートの授業の回数でございますが、10 回なんというところもございますけど、校庭リンクがあるところは 10 回程度、それ以外</p>
-----------------	---

は1回から3回というところが多くなっております。

3番目の小学校の児童数をご覧の通りでございます。

4番目のスケートの授業に参加した児童の延人数でございますけれども、茅野市が断トツで多くございまして6,612人、そのうち国際スケートセンターを使ったのが4,896人となっております。

なお、先ほどの資料1の方の説明で2ページですか、市内の学校の授業数で6,409人という数字が出ておりますが、こちらの保護者の数を含めている人数でございますので、純粋に小学生となると4,896人という数字でございます。

それから次の5番目スケート授業で使用するリンクでございます。岡谷市は当然岡谷市にあります、やまびこ国際スケートセンターを使っておりますが、屋内のやまびこの森アイスアリーナも1回使っているという状況でございます。

それから諏訪市は茅野のスケートリンクに来ているという状況です。

下諏訪町につきましては秋宮のスケートリンク、それからやまびこのスケートセンターの方も、4年生のみ1回使っているということです。

富士見町におかれましては北杜市のリンクへ行っているということ、それから原村は、校庭リンク、茅野市の場合は、泉野小、金沢小の校庭リンクに加えて国際スケートセンターを利用しているという状況です。

それから、そのリンクの授業の移動手段でございますけれども、多くはバスで利用しているという状況でございます。

それから最後の中学校の授業としてのスケートの実施ということですが、すべての市町村で実施はしていないという状況でございます。

次に資料2の方に戻りまして、2番目の使用料の減免についてでございますけれども、スケートセンターに関する減免の対象以下の通りということで小学校の教科として使用するときをはじめとしまして、そこにご覧の6つの減免を規定の中で運用しているという状況でございます。

なお1から6については市の施策による減免というようなことで、指定管理者との協定の中でも取り決めをしているんですけれども、減免額については市から指定会社の方へ補填しているという状況です。令和5年度の決算額は215万7000円ほどを補填しているという状況でございます。

それから3番目のスケートセンターが廃止となった場合の跡地利用ということでございます。茅野市運動公園は、都市公園法上の都市公園という中に規定されておりまして、都市公園内に民間活力を導入するという場合には、現在行っている指定管理者制度の他に、設置管理許可制度とか、あとPFI事業とか、あとPark-PFIと呼ばれるような事業などがあります。

それぞれのメリットデメリットというのがあるわけですが、例えばPFI事業は収益性の高い事業であれば良いんですけども、多くの自治体でサービス購入型と申しまして、民間事業者、公共サービスの対価を支払っているというような事例が多いということで聞いております。

またPark-PFI事業というのがあるんですが、これ一番新しい制度になりますけれども、スポーツ施設を整備する場合に、その他の広場や沿道などの公共空間を一体的に管理して、その収益の一部をその公共空間の整備とか改修に還元することが条件となっている。こういったことなどは一定の制約があるということになります。

現在、私ども県にも問い合わせをしたりして情報収集中でございますが、まだ調査研究が必要な部分であるかなというふうに感じております。

都市公園から外してしまえばいいというようなお考えもあるかもしれませんが、都市公園法においてみだりに、全部または一部を廃止してはならないと規

<p>行革推進係 主査</p>	<p>定されておりまして、施設の廃止ということをもって都市公園の区域変更はできないものということで解釈をしております。</p> <p>はい、資料2につきましては説明以上になります。</p> <p>皆さんこんばんは。私の方から資料3、公共施設に関するアンケートの集計値についてということで説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>第1回の審議会でもアンケートの内容についてはご覧いただきましたが、市民3,000人に郵送によるアンケートの方を実施をいたしました。今回そちらのアンケートの集計について説明をさせていただきます。</p> <p>このアンケートにつきましては、先ほど課長からも説明をいたしました。6月の下旬に発送し、7月10日を回答期限として行いました。</p> <p>今回スケートセンターに関する部分を一部抜粋して、7月29日時点での暫定値、速報値として、今回資料を提示させていただいておりますので、ご承知おきください。この結果はあくまでも単純集計という形になりますので、今後クロス集計だとか、分析というのはこれからというところになります。こちらの方もご承知おきください。</p> <p>まず1ページになります。</p> <p>有効回答数になりますけれども、1,013人回収率の方が33.7%となっております。一応統計調査においては信頼度の高い結果というような形になりますのでこちらもお願いたします。</p> <p>性別になります。こちらご覧いただいた通りになります。</p> <p>年代についてですけれども、1点訂正の方をお願いいたします。20歳代以下が6.6%となっております。こちら6.9%が正しい数値となりますので訂正をお願いいたします。年代の方見ますと、60歳代、70歳代が48.3%と回答者の約半数となっております。</p> <p>20歳代以下及び30代は15.8%の回答となっており、若い世代の回答は比較的少なかったということがご覧いただいた通りだと思います。</p> <p>続いて2ページをお願いいたします。</p> <p>アンケートの前半において38施設を挙げ、その個々の施設について、認知度、利用度、必要度を回答いただいた上で、ここにあります問11、将来茅野市にとって絶対必要かどうかということ、確認する設問となっております。</p> <p>結果を見ますと、何らかの施設に○をつけた方が997名いるという形でそのうち399名、41.8%がスケートセンターが必要だということで回答しています。</p> <p>全体からすると9番目となっております。上位を見ると、総合体育館だとか、陸上競技場などの他のスポーツ施設が上位に来ていることがわかります。</p> <p>続いて3ページをお願いいたします。</p> <p>こちらは問11と反対に廃止を検討していくべきである、と思う施設を確認する設問となっております。結果の方見ますとこちらの、問11同様廃止を検討すべきと考える施設に1つでも○をつけた方が790人いてそのうち174人22%がスケートセンターは廃止を検討していくべきと回答しています。</p> <p>こちらは全体から見ますと8番目となっております。</p> <p>単純に問11と12を比較しますと、スケートセンターが必要だと思う人は399人に対して廃止を検討すべきと答えた方が174人と、必要だと答えた方が多い結果となりました。</p> <p>続いて4ページをお願いいたします。</p> <p>問21、22については、先ほど説明した問11、12の設問と同様の設問となりますが、施設をさらに絞って優先的に投資をしていくべきと考える施設、逆に優先的に</p>
---------------------	---

	<p>廃止を進めていくべき施設を問う設問となっております。</p> <p>問 21、22 とともに1つないしは2つに丸をつけた方を回答者数としております。</p> <p>結果は、優先的に投資すべき施設では、回答者数 967 人のうち、スケートセンターは 125 人が優先的に投資すべきと回答しており、全体のうちでいくと 8 番目の結果となっております。</p> <p>優先的に廃止を進めていくべき施設として、答えた方、回答者数が 914 人のうち、こちらすみません問 22 になりますが、914 人のうち 205 人がスケートセンターと回答をしており、廃止を進めていくべきと考えている方は全体の 3 番目となっております。</p> <p>この結果から問 11 において必要だと回答した方でも、優先度を見ると他の施設のほうが優先度が高いととらえることができるかと思えます。</p> <p>逆に廃止すべき施設としては問 12 では回答していなかった人の廃止を検討すべきであると回答している人もいることや、廃止を検討する施設をスケートと挙げる人の中では、優先順位の方が高い方であるととらえることができます。</p> <p>問 11、12、問 21、22 全体を通して見ましても優先的に投資をして存続して欲しいという意見も廃止を検討すべきだという意見も、大きな差があるわけではないのかなというような結果となっております。</p> <p>ともに同じように廃止、存続して欲しいという意見があることがわかるかと思えます。</p> <p>続いて 5 ページ以降になりますがこちらについては公共施設のあり方等についての自由記載の中で、スケートセンターに関係しそうなご意見を一部抜粋をして掲載しております。存続の声、廃止の声、またいろいろな施設の提案などをいただいております。こちらの方はまた目の方を通していただければと思います。資料 3 についての説明は以上になります。</p>
会長	はい、教育長。
教育長	<p>スケート授業の現状について私の方から若干補足説明をしたいと思えます。子どもたちに調査した結果について、本日は数字のみをお伝えしたいと思います。</p> <p>様々な分析まだこれからやや時間がかかるので、数字のみということで、ご理解いただきたいと思えます。</p> <p>小学校 9 校の子どもたちに調べた結果、いくつかの設問を出しましたが、スケート好きですかっていうことをストレートに聞きました。</p> <p>そうした場合、学年によって凸凹はあるわけですが 48% から 79%、平均すると 65% の子どもが好きだと答えています。</p> <p>ただし、アンケートの結果にありますように 1 回から 3 回っていう中で、本当の滑る楽しみってところまでいってるのか、氷と触れ合う楽しみなのか、ここは今後分析していく必要があると思えます。</p> <p>いずれにしろ平均すると 65% の子どもが好き、嫌いという子どもが 2.5% から、学年によって違いがありますが 4.5% 程度になります。</p> <p>それから、スケートをしたいかということですが、これも学年によって凸凹がありますが、全体で 61% の子どもがスケートをしたいというふうに考えています。したくない子は、やっぱり 7% から 3% わずかとなります。</p> <p>それから、学校の授業以外でスケートをしていますか。1 回以上学校で授業以外でスケートをしているって子どもが全体の平均で 42% で、一番多い学年は 44%、高学年になるとやや少なくなって 37% ですが、いずれにしても、約 42% ほど子どもが授業以外でもスケートに行ってるってというような、結果になります。</p>

	<p>それから、小学校卒業後もスケートをしたいかっていうところに対してですが、これは今後分析してかなきゃいけないと思いますが、したいっていう子どもが、37%から 70%の中で凸凹があります。平均すると、56%の子どもが、小学校卒業後もスケートをしたいっていう、こんな意見をこれが子どもたちの現状です。</p> <p>いずれにしましても今後、もう少し分析をしていかなきゃいけないところがありますので、本日は数字のみでお許しください。</p> <p>それから、指導の体制、教職員の指導のあり方の問題ですが、ご存じの通り、長野県の教職員は、全県異動になります。</p> <p>従って、ただでさえ諏訪出身の教職員が少ない中で、3年から4年で入れ替わります。そうしたときに、スケートの自信がないっていう教職員が 83%、17%が地元出身だと思うんですがね 83%の教職員は自信がない。そのうち、靴の履き方で紐結び方の指導ができるが 43%。立ち方、氷上の歩き方までの指導ができる教職員が 22%合わせて、65%になりますが、コーナーリングまで指導できるっていうのは、11%しかない。従って、十分な指導が行われてない。だけど、私の立場からすると、子どもたちスケート好きだって言ってくれてるから、先生たち頑張ってるかなと思いますが、いずれにしろ、今後、学校の授業を行っていく或いは存続するにしろ、指導体制っていうのを、やはり助けていただくことが大きな課題になってくるかなと思います。</p> <p>私の方からは、現状と授業の現状についてお知らせしました。なお中学校についても、数値はやや落ちますが小学校とほぼ同様の傾向をたどっています。数値は落ちます。</p>
会長	<p>今の教育長さんの説明は自主的にやったってことですか。審議会で発言されるのはね、そういうのをやったら、きちんとデータで出してもらわないと、ちょっとね、まとまり次第で結構ですけども、やはり、与えられたデータ資料をもとに、私どもは検討してますので、口頭でね、そう言われても、ちょっとね、分析も難しいですし、そんな対応していただけたらというふうに思いよろしいですか。</p>
教育長	<p>はい。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今第1回のときの資料のおさらい、それからスポーツ健康課からのお話と、それからアンケートのお話と、3つありましたけども、質問に移りたいと思いますが、その前で、今までの私が説明した内容等々で、ご質問等があったらお願いしたいと思うんですが。</p>
副会長	<p>副会長なんで、あんまり個人的な発言はしませんけれども、今までの中で、1点確認です。</p> <p>6月4日の行財政審議会で、市長からスケートセンターの存廃ということについて諮問があったと。で、このときに、約10億円位前後の改修費用が見込まれるという説明だったと思うんですね。</p> <p>一方で、中期財政需要推計、これは、5年で81億2000万円不足するという話だったと思うんですけども、この10億円っていうのは、81億2000万円に、含まれているのか、或いは別なのか、別だとすると、90億円以上不足するっていう話になると思うんでここだけ確認したいと思います。お願いします。</p>
財政課長	<p>財政課の方でお答えいたします。今ご質問がありました改修の費用につきまし</p>

	<p>ては中期財政需要推計の中には含まれてございません。</p>
副会長	<p>ということは単純に考えると 90 億円からの不足が考えられるということですね。</p>
財政課長	<p>はい。</p>
会長	<p>冒頭、私も挨拶申し上げました中期財政需要推計の不足分の中には、今回のこの 11 億円という投資のお金が入ってない段階での推計ということで確認をさせていただいたということでございます。</p> <p>それでは質疑に移りたいと思いますが、切っての方がいいと思いますので、第 1 回目の資料の振り返りですね、現状についての再度のおさらいの説明ありましたがこの中で、何か質問あったらお出しをいただけたらと思います。</p>
委員	<p>はい、第 1 回目の資料の中に、先ほど財政課からお話いただいた競技会等の実施状況をのところで、競技会ですね大会基準を満たしてないっていう、文言あったんですが、もしかしたら私がちょっと今までのところで、聞き漏らしてたかもしれないんですが、大会基準を満たしてないっていうことは、国際リンクとして、何か不足があったりするんでしょうか、ちょっと教えていただければと思います。</p>
スポーツ健康課長	<p>はい、スポーツ健康課の方からお答えします。</p> <p>例えばですけれども大会に必要なコーナーマットとかがあるんですが、そういったものが十分に備わっていないとか、スケート大会の基準の方も変わってきているというような状況があるかと思っておりますので、そういったところで十分かどうか、ローカル的な大会ができますけれども、全日本とか、そういったような基準の大会はできないっていうような、形になっております。</p>
会長	<p>はい、委員よろしいでしょうか。</p> <p>その他ございますか。はい、委員。</p>
委員	<p>えっとですね、資料 5 の 1 の、9 ページなんですけど、前回も実は思っていたんですけど、B 案の諏訪広域化っていうところに関してなんですけども、こちら具体的にはどのぐらいの検討をされているのか、どのレベルでどういう話をされているのか、或いは、話はしてないけどもこういった懸念があるよってことを示していただけるのかというところを教えていただければと思います。</p>
副市長	<p>これについては 1 つの案、選択肢ということで挙げているものです。で、諏訪広域での運営化ということで言えば、広域 6 市町村のところで首長の会議、市町村長の会議、それから副市長村長の会議があって、副市町村長会議の中では、広域連合の広域行政の推進ということで、例えば諏訪地域の公共施設のあり方について調査研究しましょうとかですね、提案させていただいています。</p> <p>ただ、広域連合というのは 6 市町村の中でやっぱり国連みたいなもの、どこかが乗り気でないと、6 市町村合意にならないと、なかなか進んでいかないという仕組みになってます。特に公共施設、各市町村の事情の中で作ったものを、広域の中に持ち込んで、全体で管理しようっていうことは、それぞれの施設みんな抱えてるので、非常に利害関係が輻輳する中で非常に難しい部分っていうのは事実です。ただ提案は私どももさせていただいています。</p>

	<p>それから、県営化については、やはり 19 市の市長会の中、あと副市長会っていうのは 19 市の中にあるんですけどもそういった中でかつて過去に、スポーツ施設、各市の中でもやっぱり拠点となる施設については県の方で、県の施設に移管して見てもらってはどうかとか、或いは県の方の財政支援はどうかというようなことで提案をさせていただいてます。ただ、これ自体も県の方もやはり財政的なもんも厳しいもんですから、そしてやっぱ、各市町村が自分たちが必要ということで作った部分でしょう、ということがやっぱ県の方では回答としてあるもんですから、県営化へ持ち込むというのは非常になかなか提案してるけど難しい状況にこれまであった。これが実際のところですけども、選択肢としてはここへ挙げさせていただいたと、こういうことでございます。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>もう 1 つだけなんですけど、4 ページのところ、スケートセンターの黒字化するには、収入を 4 倍にする必要がある。4 倍はちょっとありえない数字だと思いますが、例えば、1.8 倍にしたときに、何人ぐらい必要とか、どのぐらいのスケート人口にした方がいいとか、どのぐらい詳細に見積もってらっしゃるのか、或いはざっくり 4 倍にしないっていう掛け算だけされてるのかというところをちょっと教えていただきたいんですけども。</p>
スポーツ健康課長	<p>はい、これは単純に本当に赤字額が約 4000 万円、それで収入が 1000 万円ちょっとってことですので、そこで 4 倍っていう計算をしているだけでありまして、そこにどれだけの入場者とか、入場者数にしても 4 倍になれば、当然、採算取れるっていう計算になるわけですけども、その細かいところっていうのはちょっと見積もっていないという状況です。</p>
委員	<p>はい。かしこまりました。ありがとうございます。質問は以上です。</p>
会長	<p>ちょっと今の件、単年度収支を黒にするだけの話でございますよね。今後の投資を含んだ 4 倍ではないということですね。</p>
スポーツ健康課長	<p>そういうことになりますね。はい。</p>
会長	<p>はい。わかりました。その他ございますか。よろしいですかね。ありましたらまた後ほどでも結構でございます。</p> <p>次に、資料 2 のスポーツ健康課からお話いただきました現状のことについての利用状況をですけども、この資料で、何かご質問ありましたらお願いをいたします。とりあえずよろしいですかね。</p> <p>ここにあります通り、現時点では都市公園法で作られているものということで簡単には民間への譲渡や売却はできないという状況であると、見解であるということをご理解いただけたらというふうに思います。</p> <p>またこの件でも何かありましたら、またいつでも結構ですのでご質問いただけたらと思います。</p> <p>それでは説明ありましたこのアンケートですね、スケートの部分だけ単純に切り出して、早めに集計を取っていただいたということで、何十代の方がどういう回答をしてるとかそういうクロス分析はまだでございます。単純でございますけども、残せって言ったり廃止って言ったりね、ちょっと面白い数字が出てるんですけど</p>

ども、これについてご質問あったらお願いをしたいと思います。

よろしいですかね。

詳細な分析はまだ出てないわけですが、問 11 と 12 を比べると、残すべきだが、399 人に対して廃止が 174、そして、次のね、4 ページの方で、問 21 と 22 の関係では、限られた財源の中で投資していくべきっていうのと、廃止を進めていくべきの関係でいうと、スケートセンターは投資すべきが 125 で、廃止を進めるが 205 とここも相反する面白い結果が出ております。

大体の傾向は、示されたかなとは、判断いたしますけども、よろしいですかね。とりあえずね。はい。

では今の事務局から前回の、第 1 回の資料の振り返り、それから、現行の利用状況、それからアンケート結果ということで説明をいただきました。

それでは、話の進め方として、お手元に今前回の資料を、意見をまとめたものがございます。

資料右肩に 1 と書いてある資料でございますが、第 2 回の 6 月 19 日に、現場でいただいたご意見をまとめてあるというような内容でございます。

ご覧いただきますと、それぞれ出していただいた意見だもんでわざわざ読みあげなくてもよろしいかなと思いますけども、何となくですけども、子どもの情操教育の中で必要かどうか考えなきゃいけないとか、やめるにしても激変緩和措置が必要等々の意見もありますけども、どうしても私どもは行財政審議会でございますので、スケートセンターに限らず、やはり、大きな目というか、茅野市全体を俯瞰する中で、やっぱし財政を支出していくべきということと、市民に必要な、また税負担の公平性等々を相対的に、俯瞰する中で結論に導いていかなければならないかなと思いますが、今日ここで 2 回のこの意見も踏まえ、それから本日の説明をお聞きする中で、それぞれの考えなり、ご意見等々を伺っていききたいかなとちょっと思っております。

順番に当ててもいいわけですが、そんなわけにはいかないと思いますので、できれば挙手をいただいて、考え方を述べていただけたらと思いますので、お願いいたします。委員さん。

委員

この審議会、私は多分、廃止の方向で賛成していただきっていう立場で、選ばれたかなとは思っています。

でも実際問題として、私らスポーツ協会、スポーツを愛する者にとって、このスケート場の廃止っていうのは、死活問題です。今まで、スケート文化、もうスケートの始まった頃から、茅野においては、その昔、会長さん出しておられたり、諏訪の中心で、やってきたスポーツであります。

そんな中で、小平奈緒さん、頑張っていたいただいて、金メダルまで取っていただきました。今、パリオリンピック盛んに行われていますが、そのメダルを獲った地元ってすごい盛り上がっています。

そんなものも含めて、奈緒さんが獲ったときも手を挙げて、応援していたと思います。スケート場も、NAO ice OVAL という名前をつけて、今まで盛り上がっていたと思います。そのスケート場を廃止するっていうことは、私らにとってはとても耐えられないことです。

皆さん簡単にお金がないから、お金かかるところはやめればいい。それはもう本当に単純な考えだと思います。確かに私も財政の内容を見させていただいて、厳しいなっていうことは思いました。でもその中で、どこを残し、どこを廃止するかっていうのはすごい難しい問題で、特にスケート場、これをアンケート見させても絶対に必要だってある 47%が、絶対必要って答えていますよね。

	<p>茅野市の中、何て言うのかな、ソウルの中にスケートっていうものが染みついていると思うんです。</p> <p>それを、今現在、校庭のスケートリンクなくて、金沢小学校と泉野小学校、それも2週間程度できるくらいかと思います。</p> <p>あと岡谷も400m、屋外はもう廃止する予定だそうです。中の屋内のリンクだけ残すようです。そんな中で、400mリンク、諏訪地区になくなるっていうのは、もう諏訪地区ってやっぱりスケートっていうイメージがあると思うんですが、それを何て言うのかな、その地区の全体にも、それを響いちゃうことではないかなとは思っています。</p> <p>方法として、クラウドファンディング等いろいろ検討をしていただいて、ぜひ残す方向で、検討していただければありがたいかなと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>要約すると、市の財政負担がない、もしくは、なるべく少なくなるような、クラウドファンディング等々の方式を取り入れて、残す方法で検討いただきたいというご意見でよろしいですかね。</p>
<p>委員</p>	<p>はい。</p>
<p>会長</p>	<p>はいその他いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>はい。ありがとうございます。たびたびすいません。</p> <p>ちょっとですね、今日は大変会長副会長厳しい判断をリーダーシップとっていただいて、ちょっと心苦しい意見になっちゃうかもしれないんですけど、ちょっとお聞きください。</p> <p>私、知合いに、スケートをやってる子どもの親御さんやっぱりおまして、私の子どもが1年生なもんですから、うちはスケートやってないんですが、事務局にもちょっと事前にお話したんですけど、そのスケートセンターの存続について、子どもたちからのお願いということで、有志一同ということで、私、アンケートのようなものを預かってしまいました。しまいましたっていうのは、私の心情ですが、こちら多分、市の方にも提出されてるということなので、ご存じだと思うんですけども、私個人的にいただいたので、96名の子どもたちが、あとその親がですね意見を書かれていて、私もまだ1日30人ぐらい、すべて読んでみました。</p> <p>その中で全部読むと大変なことなので、簡単にポイントだけにしたいと思うんですけども、例えば子どもの意見として、出るところが、1意見ですね、スケートは友達と出会い、そして一緒に速くなれる良いスポーツだと思います。</p> <p>友達同士で、ある程度の競争意識が生まれるため、より早くより仲良くなりますっていう意見とかですね。</p> <p>高校生の子なんかだと、茅野に来て始めたスピードスケートは今では僕にとって、とても大切なものとなっています。間近で見る全国トップレベルの選手などを普通に過ごしていたら会うこともできないような選手に会えたり・・・ということが書いてあったりとか、今までの子は比較的大きなことだと思うんですけど、この子は、中学校、大きい子ですね、今までの思い出がすべて詰まっていて、新しい友達がベストタイムを出したときの嬉しさなど、ベストが出なかったときに悔しさなどの色々なことを体験させてくれる素晴らしい場所だと思います。</p> <p>っていうことを、言ってる子たちがいて、当然聞けば、我々自身が経験してきた</p>

ことですよね。何か打ち込んで、そうよね、中学校ぐらいの子としてそういうことを感じるよねと思うんですが、私は一番大きく気になったのが、小学校の子だと思うんですけども、スケートが好きですか、好き。どんなところが楽しいですか。滑るところが楽しい。これからもリンクでスケートやりたいですか、やりたいです。これだけのことなんですよね。多分小学校の低学年の子でしょうね。

私これを見て思ったんですね、子どもたちは自分の意見、意思を表現することもできなければ、その場所を持ってないということなんだと私は感じたんです。

その点で、私この協議会に来て、前回まで色々聞く中で、市から出していただいている、詳細のデータ、これを見れば、無理だよねっていうことが、すべての方の共通の認識になると思うんですよ。

ただそれは我々でなくてもAIが判断しても駄目だよねってことだと思います。

ただ子どもが意見をできない子どものことを考えるのであれば、我々大人っていうのは、それをより深く細かく検討していく義務があるんだろうなというふうに思うんです。その点で見たときにこの資料をじっくり見返してみたんですけど、先ほど質問させていただいたのも、もうどうやったら収支良くなりますか、4倍にすればいいですよ。

で、そんなはずないじゃないですかね。広域運営でも検討されてるし、首長さんの方でも、役所レベルでも話を出されたことがあるということなんですけども、ただそれは具体的にどういう交渉があって、どれだけの話なのかっていうところを結論までは至ってないようにも感じるんですね。

そこで、今回の答申でどう答え出すか、会長は白黒をしっかりとつけるということで、言われていて、私もそうなのかなと思って聞いておったんですが、逆に我々大人の責任としては、これだけの検討の内容で、茅野市の文化、これは茅野市の文化であり、長野県の文化でもあるはずで、金メダリストを出してる日本にとっても大切なことであり、そういうことを考えたときに、この資料だけで茅野市財政厳しいですよ、やめましようっていうレベルの話ではない気がするんですよ。

もう1つ言わせていただくと、市役所どうしてるんだっていうことを言いたいわけじゃないんですよ。一部あると思いますが、議員さんどういうふうに動いてるんですかっていうのも思います。ここにそれが出てきてもおかしくないと思うんですね、議会としてはこういうこと動いている。県議とも話してる、知事と話している。国会議員とも話している。けども、協力を得られないんだであれば、仕方ないと思うし、例えばスケートクラブさん、資料送っていただいたクラブさんに対して私は思うことはあります。

なぜこうなるまで動かなかったのかっていうところですね、やめる方向になってから意見を言われても遅いかもしれないですよ。

周りに、議員さんいらっしゃったはず、そこに相談できなかったのかということも思いますし、あとはオリンピックが10名いらっしゃるということなんですけども、その10名の方、どう考えてらっしゃるのか、どう動くをされてるのかっていうところも、ここのテーブルの上には、何も載っていないということで、非常にこの状態じゃ、私は判断できないなっていうのが正直な意見で、私はスケートを残してくれてことを言ってるわけではありません。個人的に。ただ、情報がないので、これは答申できないんじゃないかっていうところが私の今の意見なんです。

答申できないけど、この状態じゃできませんよ、ついてはこういうことこういうことをしっかりと検討してください、という答申もありのかなと思うんですが、会長は勇気を持って白黒つけると言ってくださるところは重々理解してるんですけども。正直それでもいいのかな、玉虫色でもいいのかな。

ただ、そこに付記する内容に関しては、厳しくしっかりと指摘していくというの

	<p>が、現状の私の感想でございますが、皆さんいかがでしょうかというところです。すいません。はい。以上です。</p>
会長	<p>はいありがとうございました。今、中ほどでまた広域の部分が若干出ましたが、何か副市長の方で何か回答ありますか。</p>
副市長	<p>例えば広域とか県営化っていうと、広域の方はまだ中で話していることなんですけども、例えば県営化ってことだったら市長会通して、県の回答をもらってたりして会議録なんかもありますから、もし資料ということではそういったことで、県の支援措置っていうのに対して県がどういう考え方してるかっていうのは会議録をお見せできる、資料として提示できるんじゃないかなというふうに思います。</p>
会長	<p>今大変貴重な意見をいただきました。私どもがね、審議会ということでね、事務局から提出された資料に基づいて、また市の皆さんに質問する中で、それぞれの考え方、意見を構成していくという立場かと思しますので、一般市民の皆さんの意見を私どもが直接審議会として聴取するということはしないというか、できないというふうに考えておりますので、今の委員のお話はですね、審議委員個人のところに、こういうものが来たという中で、委員さんの考えた意見を構成するのに必要な資料ということで取り扱いをさせていただきたいと思しますので、よろしく願いをいたします。</p> <p>その他。</p>
委員	<p>実は、私も今日意見聞かれるだろうと思って、事前に準備してたんですけど、アンケート内容を見たら、先ほど会長さんが言われた通り、存続して欲しいというのと、廃止しろっていうのが、本当に拮抗してるっていうか、そう言っちゃいけないんですけど、まだ茅野市民の中で、バラバラな感じがしていて、そうすると、この資料をもって、どう判断したらいいかわからなくなって、やめるって廃止するっていう話は何となく今までの資料で見て私もうそういうふうには思って、ソフト事業化の方に、移行すべきかなあと。でも先ほどやまびこの400mなくなるとか、そうすつとこの近辺では、八ヶ岳北杜市の八ヶ岳のところだけになりますよね。</p> <p>んで、本当は広域的に、スケート場使えるために、バスの補助金であるとか、利用料を出すような、そういうのに転換していけばいいと思ってたんですけど、そこら辺が欠けてくると、資料上は、屋外リンクっていうのをこれ屋内リンクにするほどのお金は多分ないと思うし、10億円の投資をする余裕も先ほど会長が言った通り、あるようには思えないんですけども、もう1自治体でやるのは無理だっていう施設になってることは間違いないというふうに思います。</p> <p>ただ、市という枠組みで無理なら、先ほどから出ている広域での対応や県との調整ということも、あると思うので、やっぱりその点はしっかり詰めていただいて、その実現性についての見通しを早めに出してもらうわけにもいかないよと、これ県の意向なんてのは簡単に半年やなんかで出てくるわけではないので、そうすると、1年ぐらいはモラトリアムが必要になってくるかなというような気も実はしています。で見通しがあるんだったらあるで少しそういう調整期間を設けた方がいいと思うし、そこら辺が、明確になったところで、考えたいなっていうのが、どっちかって申し訳ないですけど、そういう感じがしています。</p> <p>で、これはここで言うべきかどうか、福沢諭吉の文明論の概略っていうのがあって、その中に「利害得失を論じるのは易しといえども、軽重是非を明にするのは甚だ難し」ということで、なかなかこの場で、この施設が軽いか重いかっていう話を</p>

	<p>結局するわけですよね、図書館とスケートセンターとどっちが重いでしょうかっていう話を、これはかなり哲学的に踏み込まなきゃいけない話になってくるので、もう少し考えさせていただいて、私は激変緩和の話をしたんですけど、ソフト面のサービスも、ちょっとやまびこの400mがなくなってくるっていうとちょっと私も考えたことと違ってきてるので、スケートセンターの廃止についてはもう少し、ちょっと検討の時間が必要になっちゃったのかなっていうのが、今の時点の私の考えですいません、まとまらずに。</p> <p>はいありがとうございます。アンケート結果が両対極に出たということで判断が難しくなったということと、やはり1市町村でやる枠組みではない、施設ではないので、その広域の話しを進められないかということで、それが進められるのであれば、もうちょっと猶予期間を持って結論を出した方がいいじゃないかというようなご意見でございます。</p> <p>広域っていう話はね、先ほどから何回も出てますが、まず聞くところによると、かなりハードルが高いというふうにお聞きはしております。というのは、それぞれの6市町村が、それぞれ国庫補助をとって、それぞれの都合で建てたものを、赤字になったから、今更6市町村でやれて話ね、それぞれの市長はなかなかできないってのが正直なところかと思えますけども。</p> <p>例えばそれが広域でどうしても1個は残したいとかいうね、話がまとめればまた別であるかと思えますけども、ただそれを待てるだけの日程的余裕があるかっていうのは、施設がもうこの状態になってるっていうのと、あと指定管理者の契約変更の問題が迫ってるっていうことで、私ども今回これ第1番目の諮問ということでいただいているかと思えますので、できればね、結論をいただきたいわけですけども、委員さんのご意見としては、もうちょっと、対応いただけないかという事かなと思えます。</p> <p>ありがとうございます。その他どうでしょうか。</p>
<p>会長</p> <p>委員</p>	<p>はい。ありがとうございます。私も似たような意見になってしまうので、別に言わなくてもいいよっていうところがあるかもしれないんですが、やはり一応私も子どもを育てている母親で、まさにスケート教室を子どもが利用していたり、近所の子がスケートクラブに行ってるっていうのが、自分の日常なんですけれども、そうですね、子どもがやっぱ多く関わる施設の存続っていうところになりますよね。別に変な、例えば批判されちゃうかもしれないんですけど、ゴルフ場がとかっていうことを、ゴルフもねお子さんやる方もいらっしゃると思うんですが、やはり教育現場としてもスケートを取り入れて、教育としてやっているっていう中で、やはり子どもたちが関わることっていうのは、よくよく大人が議論すべきだなっていうことは非常に思います。</p> <p>で、前回の視察を含めた、審議会のときに、何となく廃止の方向なんだろうなってことは、それは私以外の方も皆さんね、感じになられたと思いますし、先ほど皆様からもご意見出てるように、金額面で言えば、当然というところではあるんですけども、やはりこの数字を見て、なんかスパンと決めていいことなのかなってことは非常にやもやしているところであります。</p> <p>ひいて言えば、子どもたちが、もうちょっと成長してきたときに、例えば廃止になったという結論がもしこの先あるのであれば、子どもたちが大きくなってきて、何か見聞きしたときに、それはもう仕方なかったよねって、思ってもらえるような決断ができる大人でありたいなんてことは思っています。</p> <p>なので、広域の話も出てますし、県ですとかいろんな話出てますけれども、大人</p>

	<p>として出せるカードを出し尽くして議論ということが時間的余裕がないってことはわかるんですけども、やはりちょっと子どもたちの未来とか希望っていうところもあるので、そこはよくよく配慮しながら、もちろん金額のところを決めていかなければならないってことはあるんですけども、ずっとそんなことをもやもや思っていたので一意見なんですけれども、はい。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。なかなか難しいということで、その他、いかがですか。</p>
<p>委員</p>	<p>すみません私もちょっと似たような意見になってしまうんですけども、やっぱり子を持つ保護者として、やはりこの財政の状況だけで判断するのは、難しいのかなっていうのをだんだん感じてきているのと、あと私の勤務している小学校で、前回の現地確認の後、子どもの方から声をかけてもらいまして、この間テレビに出てたよねって言って、スケートのことって言ったら、それで、やっぱりその子もスケートとしかもプールもなくなってしまうということで、やっぱりプールもなくなって、これからまだスケートもなくなってしまうかもしれないっていうのを、ちょっとやっぱりその寂しさを感じているのと、あと何年もやはりスケートクラブの方に関わっている保護者の方からも、やはり残して欲しいって意見を直接いただく機会がありまして、これは私の最後の考えていくうちの過程にすぎないかもしれないんですけども、一応こういう意見もありましたということですみません意見させていただきました。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございました。その他いかがですか。</p>
<p>委員</p>	<p>すいません。少し皆さんの意見からすると、血も涙もない意見になるかもしれないんですが、公共施設の全体のことを考えると、ちょっと個人的に調べてみて、茅野市の財政状況資料集という公表されている資料から調べてみたところ、各施設、類似団体、全国の市町村の同じような団体に比べてかなり減価償却率が高いっていうふうなデータが出ていまして、学校、今建て替えもしてますけれど、公民館、図書館、体育館、プール、あと保健センター、庁舎、これらはすべて類似団体より減価償却効率が高い状況なので、建て替えが、特に公民館なんか、もうすでに84.4%っていう値で、類似団体は60.7%なので、かなり差があって、すぐにでもおそらく、どうするかっていう判断をして、建て替えに着手しないと、今のままずっと、すべてを維持するっていうのは難しいという状況かなっていうのは、そのデータを見て感じて、状況が逼迫しているというか、決断をしなければいけない時期に来ていると思っています。</p> <p>公共施設の再編計画もいただきましたけれども、令和12年の末までに、削減目標が、床面積の5%減というところで、スケートセンター単体の延床面積を見ると、全体の0.95%なので5%減らす目標に対して、スケートセンターを廃止したとしても、0.95しか減らせないっていうことになるんだなっていう、ただ、客観的な数字を、ちょっと見ていった方がいいかなというところで、調べてみました。</p> <p>公共施設の再編計画の中でも、削減目標マイナス5%になっているんですけども、令和12年までの間に、公共施設はマイナス5%なんですけれど、生産年齢人口はマイナス6.2%なので、その分税収も減っていくというところで、状況はかなり厳しいものがあって、ここで私たちというかが判断しないと、本当に負債というか負担が後に回ってしまうという状況なんだなっていうところで、色々考えるところはあったんですけども、ちょっと今の公共施設全体の話で、ソフト面のこ</p>

<p>会長</p>	<p>となんですけれど、全国的な報道で、中体連の話が報道にあったかなと思っていません。そのスケートの競技も含めて、他の競技も含めて、9つですかね、中体連が2027年度になくなってしまいうっていうことが、かなりスケートをやってる皆さんからすると大きいことではないかなというふうに思っていて、1つの目標というか、目指すところがなくなってしまいます。これは全国的な流れなので、もちろん大人の事情もあったり、指導者不足の問題もあると思うんですけども、その辺りも考えると、ただなくなってしまうという事実もあるので、そこで目標がなくなって、まだそれでもスケートを続けたいという、それが文化なんだって言い切れるかとか、そこまでやりたいという気持ちが持つかとかっていうところも含めると、どうかなというところで、ちょっと意見になってないですが、私から以上です。</p> <p>はいありがとうございました。委員さんの個人的な分析といいますかね、私ども茅野市は、他の市町村の平均値と比べて、要するに簡単にハコモノが多い、固定資産が多い、従って、減価償却費も高く、今後の維持費がかかると、今の状態のままいくと、本当に財政が破綻すると、いずれかの段階で集約、もしくは廃止をしていかなきゃいけないっていうことが、他の市町村に比べても高いと、こういうことの中でのご意見かなというふうに思います。その他どうですか。</p>
<p>委員</p>	<p>今、皆さんから色々ご意見あるんですが、私が今日来るときに、こういうふうに発言しようかなというふうに思っていたことが、やはりこの内容を見ると、かなり厳しい財政状況だというのは多分皆さん誰が見ても多分思うと思います。</p> <p>このスケートセンターに投入している、市のお金っていうのは、これ税金っていうか、公金なわけで、その公金というのは市民から、また企業からのものなのでそれをどれだけ有効に使えるかと、スポーツ振興だとか、子どもの教育のため、いろんなことにこのスケートセンターが関わってると思うんですが、財政状況とかそういうものだけ見ると、明らかにこれは廃止という結論になるかなというふうに思います。</p> <p>ただ私、この茅野市に住んでまして学生時代、東京というか、茅野市から離れたんですが、茅野市とかですね、信州っていうと、スケートできるんでしょうとかですね、スキーできるでしょうと、私そのころスキーできなかったんですが、スケートができたんですね。1つそれ誇らしいことで、またスケートセンターが茅野にあると、またここから金メダリストが出たということで、大変誇らしいことで、それって茅野市の魅力の1つなのかなというふうにも感じているところなんです。</p> <p>今、施設管理を委託したりとか、色々皆さん努力はされてると思うんですが、その努力の仕方ってどうなのかなと、いうことで、例えば今、広域連合だとかっていう話も広域での取得っていうこともあるのかもしれないんですが、もっと民間を利用するとか、あと受益者負担ということで、減免措置がありますが、利用料っていうのをもっと考えて、でもこのスケートセンターが魅力あるものであればいいのかなと。</p> <p>私先ほど質問させていただいた、何ですかねこの大きな競技会ができないという理由はあるんですかっていうことで言ったのは、やはり大きな競技会とかですね、国際的なレースとかがあると、そこにトップアスリートが来たりとかするわけですよ、それってやはり大変何ていうかね子どもたちが例えばそのアスリートたちを見たりすると、憧れたりして自分はやりたいなっていうことになるので、そういう機会が失われてるってことはやはりどんどんどんどんこのスケートセンターの魅力っていうのがですね、低下しているという現状なのかなというふうに思っております。以上です。</p>

<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。その他いかがでしょうか。</p> <p>ちょっと私の方から、委員の皆さんにちょっとお伺いしたいことが1点ありまして、スケートセンターに限らずね、今まで茅野市で構築したものは、できればすべて残していく、残していきたい、それぞれの必要性があって建てたものでございますし、市の財政、それから国庫補助等を取った中での施設かと思しますので、今言うように、税収が限りなくある場合には、すべて残せるわけでございますけども、やはり今後、税収が減っていくと、それから人口の構造が変わってくわけですよ、生産年齢が下がって、子どもがいなくなって年寄りが増えて、当然市の財政もシフトしてるわけですよ、そちらの方へね。そういった状況の中で今まで持ち続けてきた施設、ハコモノって言うていいんでしょうかね。これをこのまま維持することはできないと。</p> <p>仮にスケートは残すべきだと言ったときには、先ほどの財政推計からすると、今の財政では持てないということになりますので、残すことが市民の総意とするならば、さっき冒頭私言いましたけど、5万人として1人年間1万円出してもらって5億円です。2万円出してもらって10億円。そういった目的別税みたいなものを課してもですね、やるべきだと、というような結論が得られるならばね、これは当然存続かなと思えますけども、もう現状ある財政の中で、残せと言われてもこれは、できないっていう言い方は変ですけども、他を削って残すと、こういう形になるのかなというふうに思いますので、その天秤も難しいわけですが、どうにでも残せと言え、今ように、目的別税を市民が負担しても、という考え方に至るかどうか、そこら辺ちょっと委員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>すいません。</p> <p>今、税金の話だけされておりますが、他に方法はいくらでもあると思います。</p> <p>先ほど言ったように、クラウドファンディングまた企業版ふるさと納税、各それぞれの手を尽くして、駄目なら、その1人1万円という話も出てくるかと思えますが、方法を全部検討してから、でないとその結論というのは出ないと思うんですよ。もうちょっと努力してみてもいいんじゃないですか。そういうふうに思います。</p>
<p>副会長</p>	<p>はい。すみません今そういうお話出ました。</p> <p>スポーツ協会、或いはスケート協会として、クラウドファンディングとか、そういう企業とかがってことは、もう実際に動いてるのかどうか或いは、もうそういう考え方があるのかっていうことをお聞きしたいのと、市として本当にこの10億とか、そういうお金をクラウドファンディング或いは企業にお願いして、実現性があるのかどうかっていう考え方を聞きたいんですが。</p>
<p>委員</p>	<p>まだ、私らの方は動いておりません。で、この話を聞いたのが、私は審議委員になって初めてスケートセンターの廃止を含めて諮問されますよ、その話私初めて聞きました。前の行革の委員会では、まだ継続審議っていうことで、続いてたかなと思えます。そんなことないですか。この4月に急に出てきて、もう廃止も含めて、検討。いやそれはちょっとないじゃないかと。あまりにも。それで12月に結論出しましょう。それはちょっと時間の余裕がなさすぎると思います。どうみても動きようがないです、正直言って。</p>
<p>会長</p>	<p>市の方で。</p>

副市長	<p>スケートセンターで企業版のふるさと納税も含めてこういった形でどのくらい集まるかってのは非常に、不透明なところありますけども、陸上競技場の三種の公認のときに、寄付と、あとクラウドファンディングで集めていただいた部分があります。それはキッツさんとかにも協力していただいたんですけど、様々な形で寄付をいただいて、最終的に600万円ぐらいだったんですね。</p> <p>ですから6000万ぐらいの工事費に対して600万ぐらいの寄付だったものですから、それは市の税金の方で最終的には投入した。陸上協会の皆さんとか、スポーツ協会の皆さんも、その熱意を持って集めていただく中で、当時陸上競技場の三種公認に踏み込んだってことがありますけど、その全額賄うとかそういったような金額でなかったってことはあります。</p>
会長	委員。
委員	<p>すいません。今日の資料の、茅野市にとって絶対必要だと思うすべての公共施設の9番目にスケートセンターがある。廃止を検討すべきというすべての公共施設なりに○をつけてくださいってところの8番目にスケートセンターがある。</p> <p>これ先ほど話に出てる、全く対極の話なんですけれども、我々審議会っていうのは、やっぱり費用対効果ってこともある程度考えていかなきゃいけないと思うんですね、財政を審議するところ。今なんかお子さんの気持ちだとかっていうことを優先されてたり、皆さんのご意見は、自分の思い出もそこにあるとかっていうお話をされているんですけども、現実には茅野市の財政がもう行き詰まってるっていう中で、どれをもしスケートセンターを残すならば、どういう残し方をするのか。いや残すならば、絶対必要な額を最低限絞ってって他のところを削らなきゃ無理でしょ、っていう話になると思うんですよね。</p> <p>そうするとこの廃止を検討していくべき、すべての公共施設の中の、例えば焼肉広場だとかゴルフ練習場だとバッティングセンターそういうのを全部削っていく。市民が、本当にそれでよしとするのか。市民っていうのは、行政サービスは今までと同じように必ずあると思ってると思うんです。</p> <p>今までも、例えばスケートセンターの利用料も今までと同じだったら使いたい。1年中使えればもっといい、日曜日行っても土曜日行っても夜行っても、強化選手だけが使ってるんじゃないじゃなくて、私たちも使いたい。そういうサービスの上にあった方がいいんじゃないのっていうのが、市民の声だと思うんです。</p> <p>で、もっとサイレントマジョリティ、多くの市民は本当にいるのかな、必要なかなっていうことがね、今日のこのアンケートの中で、まだ明確にされてないんじゃないかなって、僕は思うんで、皆さんの意見と、結局的には同じなんですけれども、そのもうちょっと審議を我々は尽くしていかなきゃいけないのと、行政サービスがね、今まで通り行われるには、やっぱり受益者負担がこれからは当たり前だっていう時代になると思うんですよね。</p> <p>今まで通りの行政サービスを、今まで通りの税金で、してもらえって思うこと自体がすでに間違っている。時代はね。失われた30年間、物価も上がらずに、人件費も上がらずにやってこれたからいいんだけども、物価がどんどん上がっていく中で、市の財政は厳しくなっていく。</p> <p>収入は増えていかないわけだから。だからそういう中で、やっぱり我々考えなきゃいけないのは費用対効果、このことを、行政と財政を審議する委員としてはですね、そちらの方に主眼を置くべきだって僕は思います。</p> <p>ですから、そのもうちょっと、適切な表現かどうかわかりませんが、心情的な話と、実際、行政がサービスを今まで通りできるのかどうか、市民が求めている</p>

	<p>サービスがどこにあるかっていうことを我々は審議すべき、そこに立ち返った方がいいんじゃないかなっていうふうに思います。以上です。</p> <p>会長 はい。ありがとうございました。</p> <p>私どもは審議委員ということでありますので、税負担の公平性、それから、施設の公共性、公平性、費用対効果、財政を使った場合の費用対効果等々含める中で、やっぱり心情的なものも大事なんですけども、やっぱり行政の立場、財政の立場で、もう少し検討しなければいけないかなというご意見をいただきました。</p> <p>私ちょっと先ほどね、極端な言い方おっしゃったんですけども、結局そういうことになるんですよ。10 億円のうち、クラウドファンディングが5億集まったとしても、あと5億はどういう形にしる市民が出さなきゃいけない。それは他の公共施設等を削る、税金を上げる等々いずれかのことをしなきゃいけないので、本当にあっちを削ってこっちをっていうね、天秤にかけるような話で、非常に難しいと思うんです。難しいがゆえに、なかなか結論出せない、出したやつが悪いやつみたいになるのも嫌だし、みたいなどころも、正直私もありますけども。</p> <p>しかしながら私も1市民として、財政状況を見る中には、やはり私も含めてすべての市民は、すべてが将来のためにという考え方に立って物事を判断していかないと、何もできないかなというふうに考えております。</p> <p>ちょっと余計なこと言いました。他にございますかそろそろ時間もありますのでまとめに入りたいと思いますけども。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。今までの資料を拝見していて財政面を考えると本当に莫大な費用がかかる施設だからゆえに、このテーブルに一番、最初に挙げられたんだらうなっていうのをすごく実感せざるをえないような説明が続いていたので、厳しいなっていうところが正直ありました。</p> <p>今日も他の委員のご意見とかをお聞きしたり、お子さんの声とかをお聞きして、やっぱり私のところにも同じようにスケートをやってらっしゃる方からのご意見とかを頂戴して、早急に検討と結論を出さなきゃいけない問題だということにはわかるんですけど、私自身、市民の1人として、このテーブルに着いたっていう意味は、やっぱりそういう議論のプロセスを歩む必要があるからここに呼ばれたんだらうなと思うし、子どもたちの声とか、いろいろ実際今経験をしている保護者の意見とかを、このテーブル載せる。自分の考えとして載せる必要があったからここに、いるんだらうなっていうことも、おそらくしなきゃいけないなあと思います。</p> <p>ただ、これだけの施設を今後維持していかなきゃいけないのが、誰のために、検討しなきゃいけないのかは、子どもたちのために、検討しなきゃいけないし、後回しにしてはいけないことだと思うので、ちゃんと時間をかけて、許されないのかもしれないですけど、第1のお尻の令和6年度末に向けて、しっかり結果を出すような議論をしていかなきゃいけないなっていうのを今日改めて、実感しました。すいません。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p>
<p>委員</p>	<p>すいません、度々すいません。手短に済ませます。</p> <p>先ほどちょっとお話をし忘れていたんですけど、皆様のご意見をお聞きする中で、私も子どもたちのこの意見をですね96枚読みながら、とても冷酷な気持ちで読むようにしました。自分は流されないぞっていう気持ちでやるようにしたので、ただ大人が検討し尽くしてないよねっていうものをここから得ました。</p>

	<p>先ほど委員がおっしゃられた通り、費用対効果、非常に重要で、茅野市にスケートセンター、このボロボロになった冷凍機です、私も見ましたが、あれを何とか維持していくのか、っていう考え方もあれば、或いはもっと標高の高いところに移転して作っていかうという前向きな意見だ出てくるべきだと思うんですね。これは受益者さんの責任はあると思いますけども、そちらをもっと建設的な意見を作っていくとか、市民全体となってというか、主に受益者の方、それを応援する議員の方、そういったムーブメントを作っていかなければ、おそらくこれはなくす方向しかないんだろうなと思うので、私もここで何とか残してくださいとは言っておりません。</p> <p>おりませんが、より頭をひねっていかないと、駄目だぞ。ただ、このテーブルに載った材料じゃ、私としては審議会としては、回答する材料が足りないですっていうのが、私のここでの意見であり、ここでの意見は、もっと頑張らなきゃいけない方いらっしゃるよねってのが、私も心の中の意見でございます。ちょっと偉そうなことをいうようですけども、はい、そういうことでございます。以上です。</p> <p>はいもうちょっと判断材料がね、あればいいかなっていうんですけど。なかなか難しいところかなっていうふうに思います。そろそろね、時間も経過しました。どうですかね他にどうしてもというご意見があれば、よろしいですかね。本当にいろいろ意見が出て私は今どういうふうにとまとめていいか、あれなんですけども。</p> <p>ただね、単に審議を重ねていけばいいっていうことでもありません。やはりそれぞれの委員の皆さんがね、自分の考え方を明確にさせていただいて、やはり白黒は出していかなくちゃいけないと、出し方もいろいろあると思うんです。</p> <p>例えば辞めだよと言言っても、でも残すとしたらこうしてね、みたいなね。逆に言うと、残すよ、でも残すとしたらこうしてねっていう意見もあろうかと思えます。とにかく白黒は出さなくちゃいけないっていうふうには私は考えております。</p> <p>ですのですね、次回が9月2日ということでもありますので、私と副会長の方です、そうは言っても、素々案みたいな考え方を、お示ししてそれで結論に至っていないいいかなくてもですね、たたき台にさせていただいて、検討していただくということでよろしいですかね。</p> <p>失礼ながら、そのような対応でね、進めさせていただきたいと思えます。それではどうしてもというご意見があれば、あれですけども。</p>
会長	<p>(2)その他</p> <p>よろしければですね最後のその他ということで、委員さんの方から何かあるそうであればお願いします。</p>
委員	<p>すいません時間が押しているところ、何点かお願いしたいです。</p> <p>こども部の関係の方とかって今日いっちゃう。すいませんちょっと希望というか提案なんですけど、結構、保護者から聞かれる話なので、ぜひ参考にさせていただきたいと思うんですが、どんぐり手帳と、あとファーストブックの八ヶ岳のちっちゃいというおうちが大変聞かれるんです。</p> <p>つまり、第1子のときは有効活用されるんですが、お子さんが4人いるうちの4冊あるんだけどっていうことをおっしゃられていて、うちは転校してきたので上の娘が、下の子しか持っていないので、そういうことは、私は子ども2人いても気づかなかったなと思ったので、それを希望制にしてくれないかなっていう意見も非常に多く聞きますので、ぜひちょっとそこら辺を模索して、ご検討いただけますと、もしかすると若干でも経費の削減といったところに、行くかなってことを思い</p>

<p>こども部長</p>	<p>ますので、その辺をちょっとお願いできたらなと思います。</p> <p>はいありがとうございます。ぜひ検討させていただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>よろしくお祈いします。あともう1点なんですけれども、茅野市の中に観光課と、ちの観光まちづくり推進機構というところが、観光とつくところが2つあります。で、もちろん色々理由は2つある理由はあるとは思うんですけども、やはりスケートセンターをなくす、プールがなくなるよとかって言うている中で、その観光っていう部門が2つあるっていうことが、やはり市役所とかその行政サイドに、理由があったにせよなかなか納得、市民の皆さんとしては、しがたいのかなっていうことは、見聞きして思うところなので、ですので、どうしてそれが2つあるのかっていうことだけがお聞きしたいのではなくて、それらを1つにまとめていくということの見直しとか見直しということの可能性っていうのがあるかというのを、今日でなくてもいいんですけども、やはり移住してきてみても何で観光ってつくところ2つあるのってのは正直思うところなので、それを2つあり続けなければならないのであればそれを、市民を説得できるような、説明が必要ですし、そこを統合してもう少しスマートにして行くことはできるのであれば、よりそうした方がやはりいいのかなってことを思うので、今回でなくても、次回するときでも結構ですので、何かご回答という形でちょうだいできればなというふうに思っております。</p>
<p>産業経済部長</p>	<p>それでは産業経済部から、今日お答えできるところだけはさせていただきます。</p> <p>今おっしゃったように、市の観光課と一般社団法人ちの観光まちづくり推進機構ちのDMOと言われてますけど2つの組織がございます。</p> <p>それにつきましては、今のところそれぞれ主な役割っていうものがありまして、若干説明させていただくと、市の観光課としては、大きな市の観光の施策ですね、観光の方針だとか方策、大きく言います観光振興ビジョン、今、市の観光をどんなふうやっていくかっていうことの計画を作って、それに対する財源の確保とかですね、いろんな庁内の調整等をかけているそれから、主になってる観光施設の整備、維持管理っていうものが今役割としてございます。</p> <p>DMOの方は、逆にですね、今度その市の観光政策を受けて、それを実際に会員さんですとか事業者の皆さんと連携した中で具体的な戦略を、要はアクションプランを作って実行する役目となっております。</p> <p>いわゆる観光の、司令塔っていう形になっておりますので、実行していくのが、DMOという形で2つ存在しているの、ちょっと市民の方には、なかなかわかりづらい部分もでございます。当然この2つの組織はですね連携してやっていかなきゃいけないっていうことなので、本来であれば、同じ場所にあってですね、両方が連携しながらやってくっていうのが理想ですので、そういうこともこれからは検討も必要かなと今私の中では考えていますので、とにかく、ただ市民の方には、なぜこの2つがあるのか、どういう役割があるのかということもまた、わかりやすい説明もしていくことも、私たちの必要なことでもありますし、そこは色々また、この6月ですねDMOの組織も大きく見直しました。その中で、これからチャレンジしてる部分もたくさんありますので、委員さんの意見も取り入れながらまた検討していきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>

会長	委員さんよろしいでしょうか。
委員	はい。よろしいかと言われるとよろしいかわかんないですけども。
会長	また、足りない分は後程回答いただくということでよろしいですか。
委員	はい。
会長	はいそれではですね会議事項の(1)、(2)のその他まで含めて、終了とさせていただきます。
会長	<p>5 その他</p> <p>数字文字の5番、その他について事務局から説明をお願いします。</p>
行革推進係長	はい。事務局からお願いいたします。次回、第4回目の審議会につきましては、9月2日を予定しております。時間は午後6時半からで、会場の方で議会棟の大会議室になりますので、ここではありませんので、また通知はしますが、ご承知おさください。お願いいたします。
会長	はい、それでは次回は9月2日月曜日、議会棟の方ということでお願いをします。先ほど申し上げました通り私と副会長の方で素々案、たたき台を提示させていただきまして、皆様のご検討いただくことと、させていただきますので、よろしく申し上げます。以上で議長をおろさせていただきます。
財政課長	はい。慎重なご審議ありがとうございました。では閉会でございます。副会長さんをお願いいたします
副会長	<p>はいそれでは、委員の皆さん、大変お疲れ様でした。</p> <p>貴重なご意見、いただきました。ずっと会長もおっしゃってるんですが、市長からですねこの諮問を受けて、存か廃か、やっぱり、この審議会としては出さなきゃいけないんじゃないかということですね、進めて参りました。</p> <p>今日のご意見聞きながらきながらですね、どちらにするか、だけどころいうふうについていうようなことはきちんとしてかなきゃいけないなというふうに思っていますんで、そこを含めてですね、まとめのすげえ大変だということを思ってるんですが、いずれにしても案を作っていかなきゃいけないと、いうことかと思っています。</p> <p>それで、委員の皆さんはですね、今日言い足りなかったこととか或いはもっとこういう考え方あるんじゃないかとか、そういうことを事務局にですね出していただきたいんですね。</p> <p>それから、まだ検討資料足りないんで、こういうことについて資料を出せと、考え方を出せということについても、ぜひ事務局に、早めに出していただきたいというふうに思います。</p> <p>その中でですね、きちんと進めていきたいというふうに思いますんで、大変だと思えますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>先ほどもありました、次回、9月2日月曜日ということですので、また全員お集まりいただいてですね意見を出していただければありがたいと思ひます。</p> <p>それではですね、以上をもちまして第3回茅野市行財政審議会を閉会とさせて</p>

いただきます。
大変お疲れ様でした。
ありがとうございました。

以上

次ページから資料

令和6年度第3回茅野市行財政審議会 次第

日時 8月6日(火)午後6時30分～
場所 茅野市役所8階 大ホール

1 開会

2 副市長挨拶

3 会長挨拶

4 会議事項

(1) 諮問内容の協議 (資料1～3)

(2) その他

5 その他

・次回開催9月2日(月)

6 閉会

委員の皆さんからのご意見等

1、第2回茅野市行財政審議会(6/19)

- ・冷凍機の更新をすると、エンジンではなくモーターになり、電気代が4倍くらいになるという説明を受けて→今後もお金がどんどん出ていく(維持管理経費のかかる)施設という印象である。
- ・茅野市の伝統文化とは言いつつも、利用者はピークの14万人から約3万人まで減少していて、薄れているような感じがする。お金対公益性というところがポイントになる。
- ・改修に約11億円、年間の維持管理経費に約5000万円かかるとなれば、民間企業で考えれば、「即撤退」というのが普通の考えだが、施設の公共性という観点から行政はそれだけでは判断できない難しさがある。
- ・子ども情操教育の中で、スケートが必要かどうかという観点からも考えないといけない。
- ・スケート授業もシーズン2回程度で、温暖化の影響で1回の時もある。この現状をどう考えるか。スケート教室も指導できる人が少なく、教室になっていない。
- ・スケートセンターの利用状況がスケートクラブや大会が優先となっていることが多く、土日は大会で使えないことが多い。家族で行っても滑れないことが多い。
- ・若者に選ばれるまちを掲げている市が、プールも止めて、スケートセンターも止めて、ゴルフ練習場は残すという判断は、いかがなものかと思ってしまう。
- ・止めるにしても激変緩和措置を講ずる必要があるのではないか。代替策あるか。

2、その他のご意見、ご質問等

- ・6市町村の小中学校のスケート授業の状況はどうか。(参照:資料2)
(授業の回数、人数、使用施設、交通手段等)
- ・スケートセンターの使用料の減免について。(参照:資料2)
- ・自然の恵みで氷が張って誰でもスケートができた時代から、温暖化で氷が張らず冷凍機で氷を作る時代でもスケートは茅野市の文化なのか。
- ・茅野市の若者、子どもたちは本当にスケートセンターを残してほしいのか。
- ・少子高齢化で財政が厳しくなり若者の負担が多くなることを考えるとスケートセンターにお金をかけることは疑問。
- ・スケートセンターが廃止となった場合の跡地利用について。(参照:資料2)

1. 諏訪6市町村の小中学校スケート授業の状況把握

次ページ以降、「諏訪地域における小学校のスケートの授業の現況」参照

2. 使用料の減免について

スケートセンターに関する減免対象は以下のとおり。

- ①小学校の教科として使用するとき (100/100)
- ②茅野市及び茅野市教育委員会が後援するスケート大会 (50/100)
- ③長野県スポーツ協会及び傘下の各種競技協会により国体強化指定選手に指定された者が期間券を購入した場合 (50/100)
- ④茅野市スポーツ協会及び茅野市スポーツ協会傘下の協会が主催する教室 (100/100)
- ⑤身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳のいずれかの手帳所持者及びいずれかの手帳所持者の介護者1名(成人)が使用するとき (100/100)
- ⑥ひとり親家庭の児童がスケートセンターを利用するとき (100/100)

スケート協会会員であることによる減免規定はありません。

なお、上記①～⑥については市の施策による減免であるため、減免額については市から指定管理者へ補填しています。(R5 決算額 2,157,850 円)

3. スケートセンターが廃止となった場合の跡地利用について

茅野市運動公園(スケートセンター、ゴルフ練習場含む)は都市公園法上の都市公園となっています。

都市公園に民間活力を導入する制度はあるものの、一定の制約があるとともに、都市公園の区画変更等も都市公園法の第16条で、制限されているため、仮にスケートセンターが廃止となった場合において、現時点では民間への譲渡や売却は簡単ではないという見解です。

諏訪地域における小学校のスケートの授業の現況（令和5年度）

	岡谷市	諏訪市	下諏訪町	富士見町	原村	茅野市
1-1 小学校の授業としてスケートの実施の有無	実施	実施	実施	実施（境小、本郷小） 未実施（富士見小）	実施	実施
1-2 年間計画の中でスケートの授業の回数	・1・2年生 2回 ・3～6年生 1回	①2校 各学年1回 ②3校 1・2年生のみ 2回 ③1校 1～4年生のみ 2回	①下諏訪北小 1～3年生 2回 4年生 3回 ②下諏訪南小 1～4年生 5回	境小、本郷小 各学年 2回	各学年 10回 (1月10日から2週間)	【茅野市国際スケートセンター】 ①北山小 各学年3回 ②泉野小・金沢小 各学年1回 ③その他 各学年2回 【校庭リンク】 泉野小 各学年9回 金沢小 各学年10回
1-3 R5小学校児童数	2,017人	2,292人	787人	686人	412人	2,814人
1-4 スケートの授業に参加した児童の延べ人数	2,750人	3,018人	810人	275人	1,236人	6,612人 ①茅野市国際スケートセンター 4,896人

(概算)						②校庭リンク 1,716人
	岡谷市	諏訪市	下諏訪町	富士見町	原村	茅野市
1-5 スケートの 授業で使用 するリンク	①1・2年生 ・やまびこ国際スケ ートセンター1回 ・やまびこの森アイ スアリーナ1回 ②3~6年生 やまびこ国際スケ ートセンター1回	茅野市国際スケート センター	①下諏訪北小 ・秋宮スケートリン ク ・やまびこ国際スケ ートセンター (4年生のみ1回) ②下諏訪南小 秋宮スケートリンク	北杜市八ヶ岳スケ ートセンター	原小校庭リンク	①全校 茅野市国際スケ ートセンター ②泉野小、金沢小 上記に加えて、校庭 リンク
1-6 移動手段	バス	バス	・徒歩(秋宮リンク) ・バス(やまびこ)	バス	校庭リンクのため 移動はない	茅野市国際スケ ートセンター ・徒歩 (永明小、宮川小) ・バス(その他)
2-1 中学校の授 業としてス ケートの実 施の有無	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

公共施設のあり方に関するアンケートの集計値について(R6.7.29時点)

(R6.8.6行財政審議会 資料3)

有効回答数 1013 (回収率33.7%)

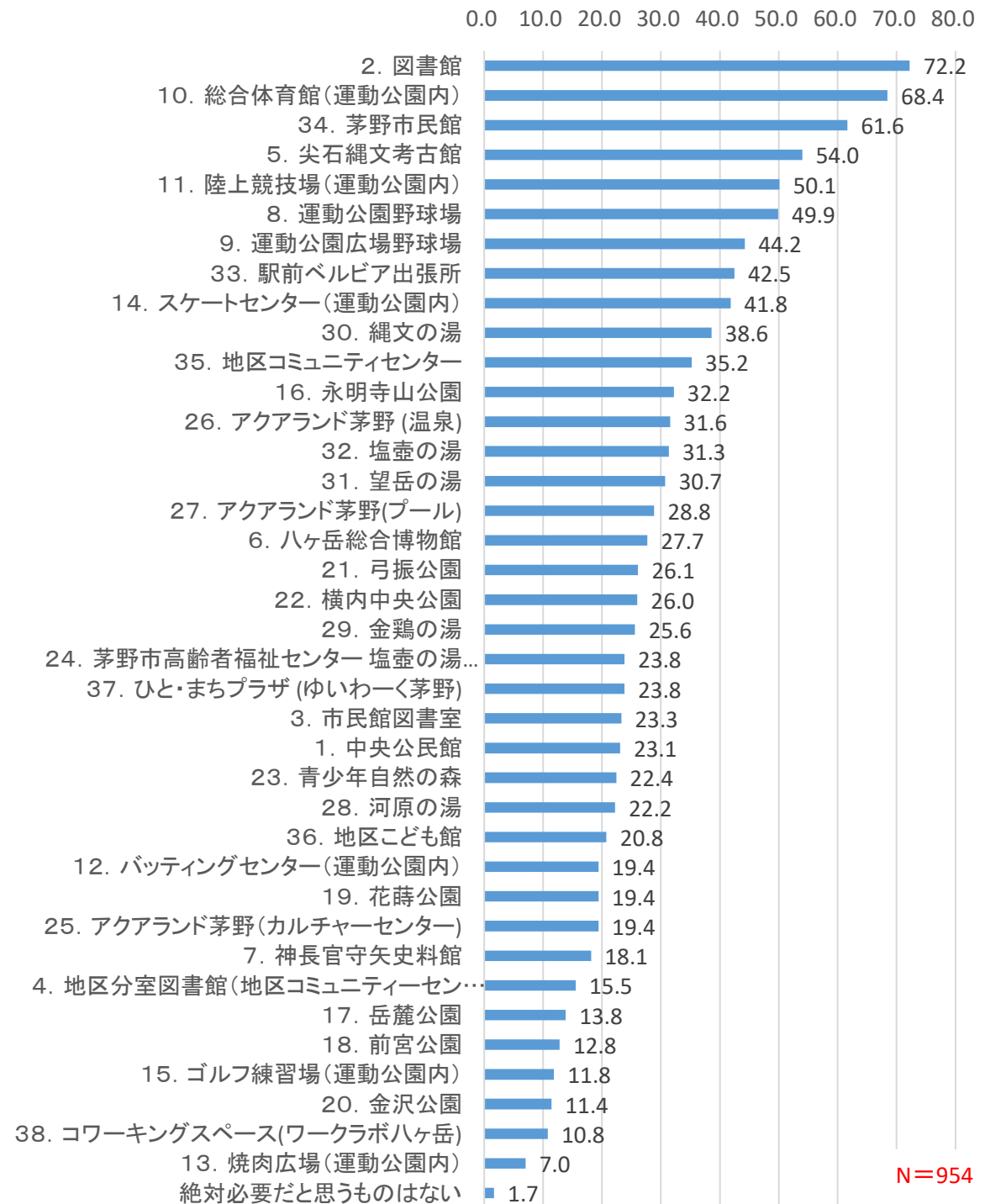
問1	性別	割合
1	男性	45.1%
2	女性	53.6%
3	その他	1.3%

問2	年代	割合
1	20歳代以下	6.9%
2	30歳代	8.9%
3	40歳代	15.8%
4	50歳代	20.2%
5	60歳代	22.0%
6	70歳以上	26.3%

問11 これから先の未来を考えて、あなたが茅野市にとって絶対必要だと強く思うすべての公共施設に○をつけてください。(複数回答)

		度数 (人)	割合 (%)
1	2. 図書館	689	72.2
2	10. 総合体育館(運動公園内)	653	68.4
3	34. 茅野市民館	588	61.6
4	5. 尖石縄文考古館	515	54.0
5	11. 陸上競技場(運動公園内)	478	50.1
6	8. 運動公園野球場	476	49.9
7	9. 運動公園広場野球場	422	44.2
8	33. 駅前ベルビア出張所	405	42.5
9	14. スケートセンター(運動公園内)	399	41.8
10	30. 縄文の湯	368	38.6
11	35. 地区コミュニティセンター	336	35.2
12	16. 永明寺山公園	307	32.2
13	26. アクアランド茅野(温泉)	301	31.6
14	32. 塩壺の湯	299	31.3
15	31. 望岳の湯	293	30.7
16	27. アクアランド茅野(プール)	275	28.8
17	6. 八ヶ岳総合博物館	264	27.7
18	21. 弓振公園	249	26.1
19	22. 横内中央公園	248	26.0
20	29. 金鷄の湯	244	25.6
21	24. 茅野市高齢者福祉センター 塩壺の湯(ゆうゆう館)	227	23.8
22	37. ひと・まちプラザ(ゆいわーく茅野)	227	23.8
23	3. 市民館図書室	222	23.3
24	1. 中央公民館	220	23.1
25	23. 青少年自然の森	214	22.4
26	28. 河原の湯	212	22.2
27	36. 地区こども館	198	20.8
28	12. バッティングセンター(運動公園内)	185	19.4
29	19. 花蒔公園	185	19.4
30	25. アクアランド茅野(カルチャーセンター)	185	19.4
31	7. 神長官守矢史料館	173	18.1
32	4. 地区分室図書館(地区コミュニティセンター内)	148	15.5
33	17. 岳麓公園	132	13.8
34	18. 前宮公園	122	12.8
35	15. ゴルフ練習場(運動公園内)	113	11.8
36	20. 金沢公園	109	11.4
37	38. コワーキングスペース(ワークラボ八ヶ岳)	103	10.8
38	13. 焼肉広場(運動公園内)	67	7.0
39	絶対必要だと思うものはない	16	1.7
	回答者数	954	

(n=954)

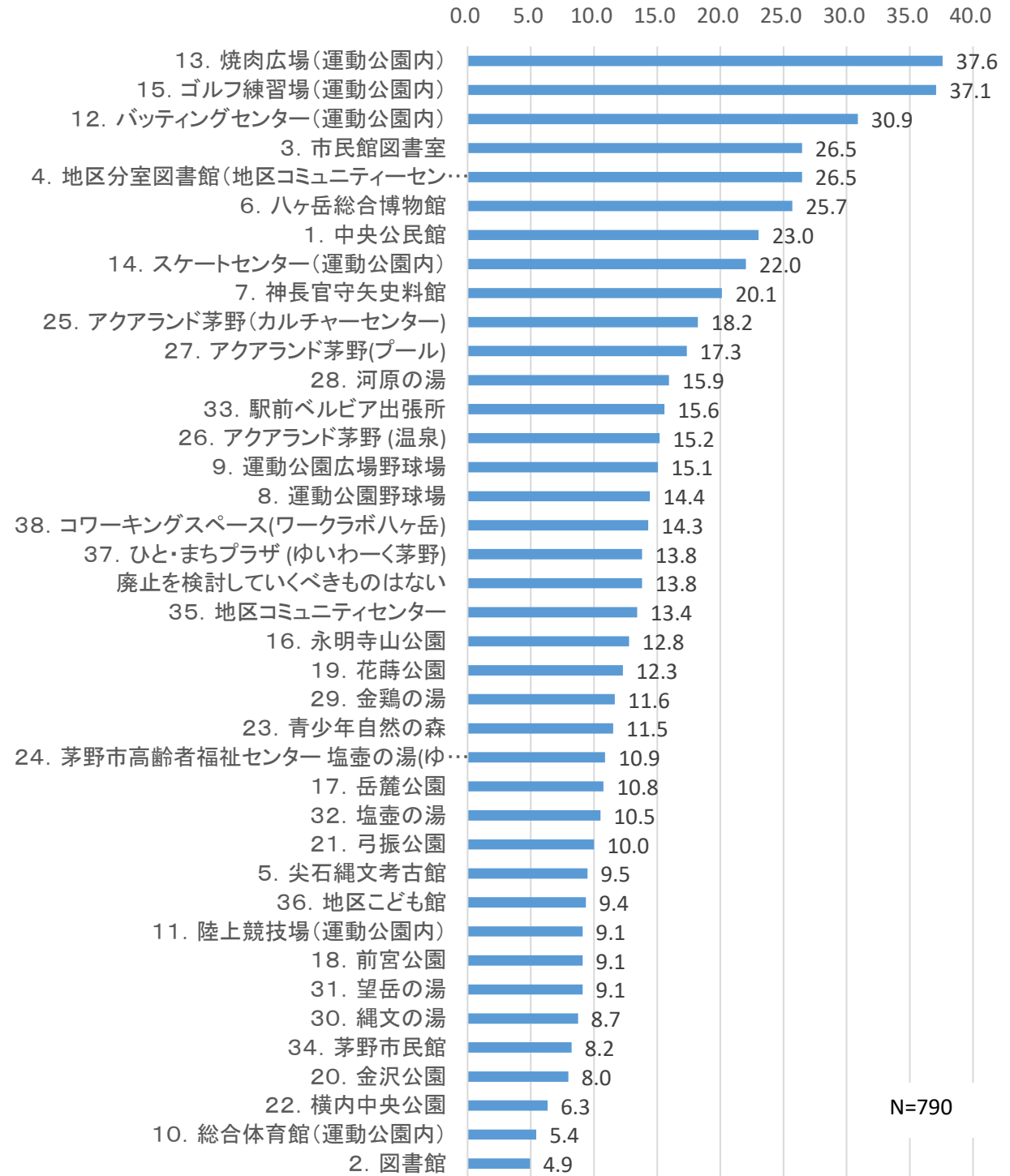


N=954

問12 今後、廃止を検討していくべきと思う全ての公共施設に○をつけてください。(複数回答)

	度数 (人)	割合 (%)
1	297	37.6
2	293	37.1
3	244	30.9
4	209	26.5
5	209	26.5
6	203	25.7
7	182	23.0
8	174	22.0
9	159	20.1
10	144	18.2
11	137	17.3
12	126	15.9
13	123	15.6
14	120	15.2
15	119	15.1
16	114	14.4
17	113	14.3
18	109	13.8
19	109	13.8
20	106	13.4
21	101	12.8
22	97	12.3
23	92	11.6
24	91	11.5
25	86	10.9
26	85	10.8
27	83	10.5
28	79	10.0
29	75	9.5
30	74	9.4
31	72	9.1
32	72	9.1
33	72	9.1
34	69	8.7
35	65	8.2
36	63	8.0
37	50	6.3
38	43	5.4
39	39	4.9
	790	

(n=790)

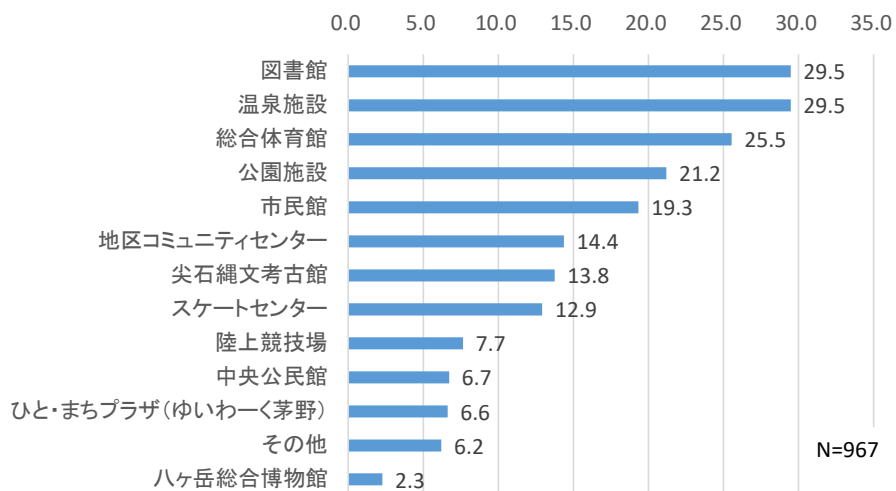


N=790

問21 問11でもお聞きしましたが、限られた財源の中で、茅野市が優先的に投資していくべきと考えられる施設は下記のうちのどの施設と考えますか。(2つに〇)

問21 最優先に投資する施設			
	度数 (人)	割合 (%)	
1	図書館	285	29.5
2	温泉施設	285	29.5
3	総合体育館	247	25.5
4	公園施設	205	21.2
5	市民館	187	19.3
6	地区コミュニティセンター	139	14.4
7	尖石縄文考古館	133	13.8
8	スケートセンター	125	12.9
9	陸上競技場	74	7.7
10	中央公民館	65	6.7
11	ひと・まちプラザ(ゆいわーく茅野)	64	6.6
12	その他	60	6.2
13	八ヶ岳総合博物館	22	2.3
	回答者数	967	

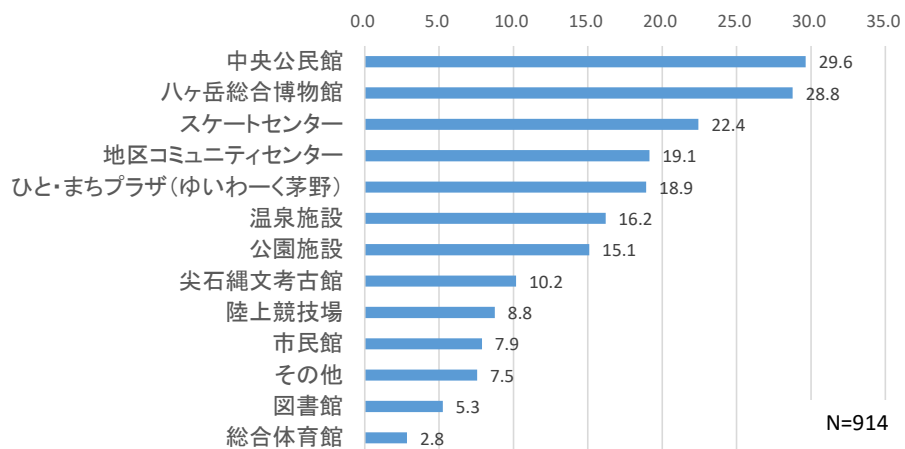
(n=967)



問22 問12でもお聞きしましたが、限られた財源の中で、茅野市が優先的に廃止を進めていくべきと考えられる施設は下記のうちのどの施設と考えますか。(2つに〇)

	度数 (人)	割合 (%)	
1	中央公民館	271	29.6
2	八ヶ岳総合博物館	263	28.8
3	スケートセンター	205	22.4
4	地区コミュニティセンター	175	19.1
5	ひと・まちプラザ(ゆいわーく茅野)	173	18.9
6	温泉施設	148	16.2
7	公園施設	138	15.1
8	尖石縄文考古館	93	10.2
9	陸上競技場	80	8.8
10	市民館	72	7.9
11	その他	69	7.5
12	図書館	48	5.3
13	総合体育館	26	2.8
	回答者数	914	

(n=914)



問33 公共施設のあり方等について自由にご意見をお書きください(自由記載) ※一部抜粋

1	オリンピック選手など輩出しているスケート文化を今後残していくためにもスケートセンターの存続を希望します。
2	スケート、ゴルフ、プールは必要です。子どものため。
3	スケート場、陸上競技場は県外からの大学・高校等に夏合宿を誘致する。スケート場は大会を開催する。多目的施設にする。例えば温泉だけでなくジムや軽い運動ができる。
4	スケートセンターの事が話題となっていますが、なくなってしまうと、子どもの頃のスケート体験もできなくなり、残念な気持ちになります。我が家の二人の子どもたちももう大人ですが、今だにスケートは好きでやってみたいと言います。茅野市の大事な財産だと思います。クラウドファンディングなどで資金を募るなどいかがでしょうか。
5	スケートセンターは是非継続できるように検討をお願いします。
6	スケートセンターは残すべきだと思います。競技場のイメージが強いのので誰でも気軽に遊びに来れるような場所になればいいと思います。
7	スケート場をなくすか話しが出ていますが、費用がかかるのはわかりますが昔からひきつがれている大切な物をなくすのはどうかと思いますのでクラウドハンテングしても残してください。
8	茅野市の標高を生かして、高地トレーニングできるような詩悦を充実させ、スポーツ関係者をたくさん招いてほしい。そのため、体育館や陸上、プール、スケートセンターは絶対に残していただきたいです。
9	バッティングセンターやゴルフ練習場も市の施設だと初めて知りました。スケートは茅野市が誇れる文化だけに、スケート場に比べれば存続の必要性は低いと感じます。(ほかの民間施設で代用可)
10	プールの廃止、スケートセンターの廃止を決定された事とても残念です。各地区の委員会での会議の必要性、会食等削減して施設の継続の足しにできなかったのでしょうか。アクアランド、すわっこランドにプールはありますが市民プールのような大きなプールで楽しくあそべなくなることがとても残念でなりません。スケートセンターも茅野市がスケートに力を入れて子どもたちも頑張っているのになぜ子どもたちの利用する施設から廃止していくんですか？未来ある子どもたちの事を考えた結果と思えません。

問33 公共施設のあり方等について自由にご意見をお書きください(自由記載) ※一部抜粋

11	<p>公共施設が赤字と言うが、本来営利目的で建設したものではない。特にスケートセンターは、世界に羽ばたく選手が多く育ち、茅野市を世界や全国に大きくPRしており、歴史と伝統、実績は素晴らしい。今後も子供達に夢と希望を与える茅野市のスケート文化を誇りとして大切に継続して欲しい。将来を担う若者・子供達にとって大きな魅力であり大きな目標であります。 ※公共施設は、スケートリンクと同様に、体育館、野球場、テニスコート、陸上競技場等、入場料、使用料を平等に支払う仕組みに変更すべきだと思います。</p>
12	<p>ひとつの自治体に、あらゆる公共施設が必要な時代は終わったと思います。町の特性をベースにして、ホントに必要なモノを大事にして行くべきだと思います。そのためには、どういう街なのか、どういう方向を目指すのかなどの議論が必要と考えます。例えば茅野市なら縄文の里であるとか、小平奈緒さんからスケート選手輩出しているとか、子供たちにファーストブック、セカンドブックのプレゼントという本の街であることなどが特性かと考えます。これらを軸に、作り、維持していく体制が必要ではないでしょうか。廃止するものについては、諏訪広域や県全体で補完していくことが必要だと思います。</p>
13	<p>役所内での検討ではなく、各施設を利用している市民(子供含む)にも参加してもらい方向性を検討すべき。今問題になっているスケートリンクも止めることだけ考えず、室内にする等して長期運用を検討すべき。担当業者の見直しも必要。</p>
14	<p>温泉施設は民間に委託でよい スケート場も民間委託でも良いが、せっかく地域の特色でもあるので、税金補助入れながらも継続できるようにし、市民がもっとスケートと密接に関われるようなイベント、大会招致に取り組めれば良いと思う</p>
15	<p>スポーツ施設、文化施設等は広域6市町村で考える。広域の中で大型の施設を管理していく。6市町村合併。(スケートセンター、陸上競技場、体育館、プール、サッカー場、音楽ホール、イベントホールなど)</p>
16	<p>諏訪地域6市町村がそれぞれ施設を持つという時代は終わったと思います。陸上競技場は茅野市、スケート場は岡谷市、野球場は諏訪市というように役割分担をして各市町村が協力して維持していく必要があると思います。(公認競技会を開けない施設はまったく意味がないと思います。)</p>
17	<p>改修費の多いスケートセンター、地区コミュニティセンターは廃止をする。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の施設を活用して複合施設を検討した方がいい(公共施設の保有数を減らす)。 ・時代や少子化を考え、スケート場は廃止にした方がいい(老朽化やスキー、スノーボード人口が多い)(スケート場が廃止できなければ、1階と2階の間にネットを横に張りゴルフ練習を2階からできるようにしたらどうか、少しや収益があがる)。 ・陸上競技場は大会数も少ないので、陸連公認でなくていいと思う。 ・茅野市を県外にアピールできるラリーチャレンジはぜひ続けてほしい。またアピールという意味で、縄文マラソンを再開してほしい。

問33 公共施設のあり方等について自由にご意見をお書きください(自由記載) ※一部抜粋

19	<p>将来世代に、負担をかけるような公共施設は、今からしっかりと協議をして統合、廃止を進めていくべきだと思う。最近スケートセンターの存続や廃止について、新聞などでも取り上げられているが、スピードスケートが茅野市の文化であると感じている若い世代(子どもたち)がどれだけいるのだろうか。これから温暖化も進む中で廃止すべきはプールではなくスケートセンターではなかったのかと思う。様々な社会環境の変化に合わないニーズにとらわれることのないよう正しい判断をしてほしいと思う。</p>
20	<p>本当に行政が管理しなければならない施設なのか判断し、積極的に減らしていくべきではないか。特にスケートセンターのような一部の利用者のみが使っており、採算が合わないにも関わらず年間の維持管理費が高額かつ今後高額な修繕費等がかかるものは英断してもらいたい。現状の財政状況を考えれば、公益性を考え、早急に動かなければならない。詳しくはわからないが、まだ財政状況がましに思える自治体では既に出しているが、緊急事態宣言などは出さなくてよいのか。</p>
21	<p>廃止を含め、積極的に整理・統合を行うべきであると思います。人口減少の流れは全国的なものであり、利便性を追求するよりも、将来的な持続可能性を考慮して、縮小や再編を進めることが必要ではないかと考えます。</p>
22	<p>市の財政確保を重点的に進めて欲しい。特定利用の方(スポーツのみとか)でなく全市民の立場での判断も必要</p>
23	<p>活用されない施設の廃止、市民のニーズに合わない施設の廃止は当然です。これらは既に公共性を失っているから。</p>
24	<p>次世代に負担なく継承できるものを残す。</p>
25	<p>現在の用途や利用者数、施設が建てられた経緯や意味などをしっかりと議論した上で、存続や廃止を検討してほしい。現在の利用者数だけで、簡単に廃止を検討しないでほしい。</p>
26	<p>生活圏の同じ諏訪郡内に他に無いような施設は優先的に残して欲しい。維持管理に費用がかかる施設はある程度の受益者負担もやむを得ないと考える。</p>